

4-1-1 黒髪キャンパスの施設・ゾーニング計画（建物配置計画）

（1）教育・研究ゾーン

北地区においては文学部、法学部、教育学部の教育・研究施設の充実を図る「教育・研究ゾーン」、南地区においては理学部、工学部の教育・研究施設の充実を図る「教育・研究ゾーン」と設定する。北地区における黒髪北E1、附属図書館、保健センター等の教育・研究支援施設も全学的な教育・研究機能の充実を図るべき施設として「教育・研究ゾーン」に含める。同じく北地区の武夫原（運動場）、黒髪体育館、プールも教育・研究機能の充実を図るべき施設として「教育・研究ゾーン」に含める。

（2）交流ゾーン

北地区の学生会館から附属図書館周辺にかけての一角を、学生・教職員の交流を促進する「交流ゾーン」と設定する。南地区においては、赤門向かい側の門周辺から本部周辺にかけての東西に伸びる一角を学生・教職員の交流を促進する「交流ゾーン」と設定する。

教育・研究施設群の中に点在する広場やFORICOについては、上記の連続一体的なゾーンには含まれていないが、学生・教職員の交流を促進するための施設として位置づける。

（3）管理ゾーン

全学の管理部門である本部と門等の管理施設の点在するキャンパス外周部を管理機能の充実を図る「管理ゾーン」と設定する。駐車場の配置は人とモノの動きに重要な役割を果たす一方、歩行者の動きや景観面の阻害要因にもなるという側面を持つことから「管理ゾーン」に加え、キャンパス全体のバランスある管理を行う。

（4）シンボルゾーン

五高記念館から工学部百周年記念館までの北地区・南地区にまたがる南北のゾーンを大学を象徴する「シンボルゾーン」と設定する。東西に連続する「交流ゾーン」と連携によって活発な交流を促し市民等学外からの利用者のニーズにも応える。

（5）バッファゾーン（緩衝地帯）

キャンパスの敷地外周部に、キャンパス外側の土地利用とのなじみをよくするための「バッファゾーン」を設定する。北地区と南地区の間を通る県道沿線は大学キャンパスと都市間を移動する人との接点であること、北地区の北及び東側は立田山自然公園へのアプローチ道路であり周辺住宅地との接点であること、南地区南側は雄大なオープンスペースの白川河川敷に面していることに配慮した整備を促進する。

4-1 施設・ゾーニング計画 (建物配置計画)



図 4-1 黒髪キャンパスの施設・ゾーニング計画

4-1-2 本荘キャンパスの施設・ゾーニング計画（建物配置計画）

（1）教育・研究ゾーン及び病院ゾーン

医学部の教育・研究機能を長期にわたり強化していくために、ミッションに対応した北・中・南地区の機能特化を進めながら全キャンパスの連続一体化を進めることで学部の総合力と個性を強める。すなわち、北地区においては附属病院の診療部門と連携した臨床教育・研究施設を配置し、それらを支援する管理施設を周辺に配置する。中地区では、南北に伸びるプロムナードの両側に本荘中2をはじめとする国際的な研究施設棟を配置する。南地区は、保健教育・研究施設を南北に延びる交流ゾーンに沿って配置するとともに、全学的な利用を想定した楷樹会館、本荘体育館、グラウンドを配置する。

（2）交流ゾーン

北・中・南の各地区に南北に見通しのよいオープンスペースを交流ゾーンとして配置することで各地区における交流とともに3地区の交流を促進する。北地区の交流ゾーンは、外来者の多い附属病院と外来用駐車場の間に設定し、外来者の憩いの場を提供する。中地区の交流ゾーンは左右対称に配置された研究施設の中心軸を成すために、交流とともに医学部のシンボル性を内外に表明する土地利用のあり方が望まれる。南地区の交流ゾーンは学生・教職員の交流の場として憩いとくつろぎの場を提供する。

（3）管理ゾーン

駐車場、設備管理棟、倉庫等を含む管理ゾーンは管理用道路に沿った敷地周辺部に配置する。

（4）シンボルエリア

山崎記念館と肥後医育記念館周辺を「シンボルエリア」として位置づけ、ここを日常的に訪れる学生・教職員及び外部からの来訪者に対して熊本の医学教育の歴史と伝統を喚起する場となるような整備を図る。

（5）バッファゾーン（緩衝地帯）

敷地縁辺部は「バッファゾーン」として、周辺市街地との緩衝地帯として整備するとともに乱雑になりがちな管理施設や倉庫等の整序を図る。また同時に、北・中・南地区の連続一体化を促進するために重要な整備を図るゾーンとして位置づける。

4-1 施設・ゾーニング計画（建物配置計画）

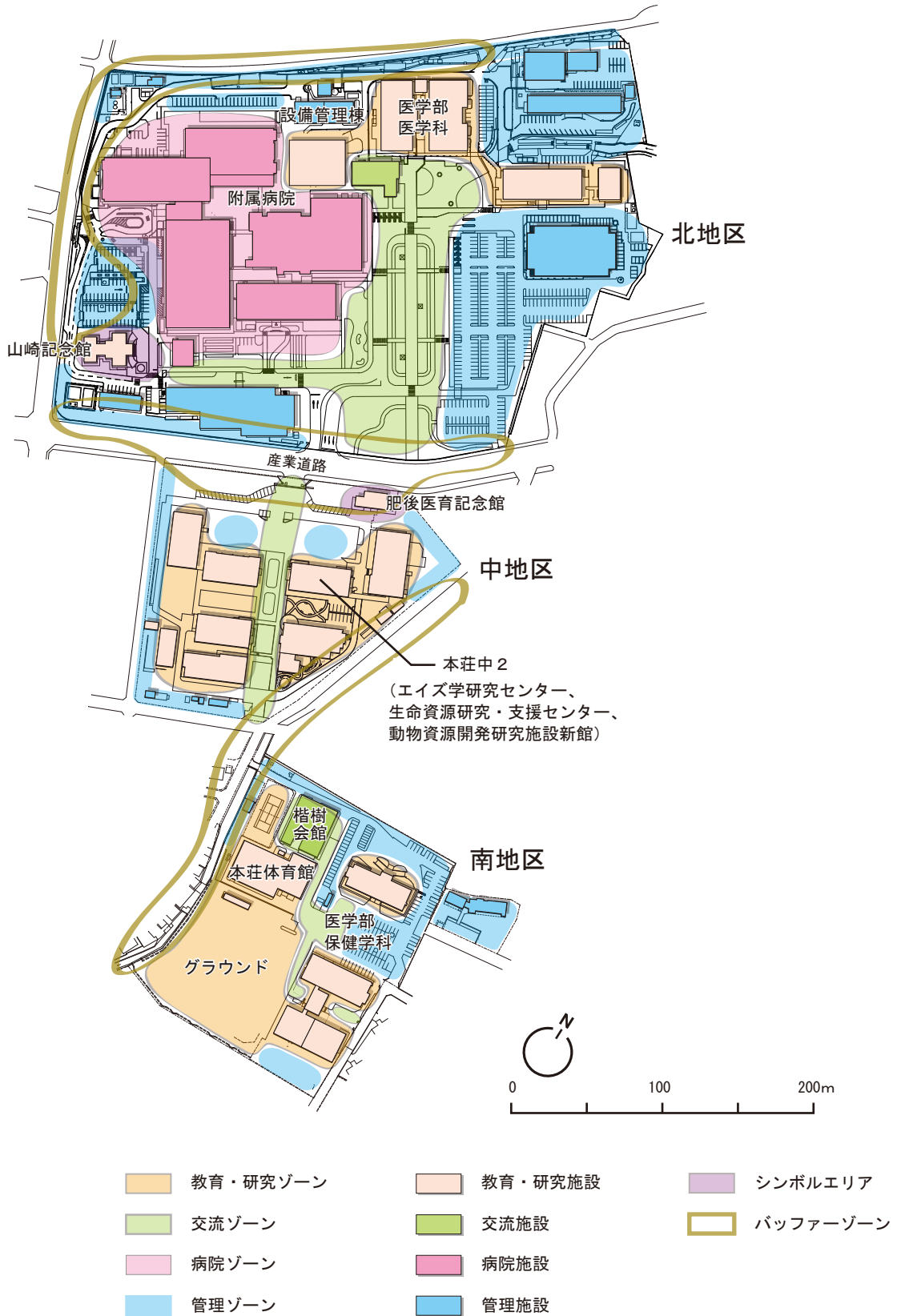


図4-2 本荘キャンパスの施設・ゾーニング計画

4-1-3 大江キャンパスの施設・ゾーニング計画（建物配置計画）

（1）教育・研究ゾーン

研究教育施設棟を北地区中央部に配置し機能を充実させ、本学部の特異な研究教育施設である薬用植物園を北地区東側と南地区に配置する。

（2）交流ゾーン

薬用植物園は、研究教育施設であるとともに内外の来訪者を招き入れ薬学に親しむ場を提供する交流の場でもある。そこで、北門および正門から薬用植物園へ至るルート进行交流ゾーンとして設定する。北門の外も外部から人を招き入れるに相応しい環境整備を図るとともに、薬用植物園に至る樹間散策路も交流ゾーンとする。正門から宮本記念館および学生食堂のある蕃滋館および大江体育館を経て薬用植物園に至る交流ゾーンは、教職員の憩いの場として憩いと潤いのある外部空間の整備を図る。

（3）管理ゾーン

駐車場、設備棟、倉庫等を含む管理ゾーンは、敷地周辺部に配置する（北地区）。南地区の管理ゾーンは将来の機能更新のための余地を含む。

（4）シンボルエリア

宮本記念館とその周辺エリアを「シンボルエリア」として位置づけ、ここを日常的に訪れる学生教職員及び外部からの来訪者に対して薬学教育の歴史と伝統を喚起する場となるような整備を図る。

（5）バッファーゾーン（緩衝地帯）

敷地縁辺部は「バッファーゾーン」として周辺市街地との緩衝地帯として整備するとともに乱雑になりがちな管理施設や倉庫等の整序を図る。北地区北側は住宅が近接するので、枝張りに配慮しながらも良好な住宅地の形成に寄与する。北地区南地区の間の道路に沿ったゾーンははこの地域が落ち着いた文教地区であるという地域イメージと「森の都」という都市イメージに資するよう樹木の管理を行う。

4-1 施設・ゾーニング計画（建物配置計画）



図 4-3 大江キャンパスの施設・ゾーニング計画

4-1-4 京町キャンパスの施設・ゾーニング計画（建物配置計画）

(1) 教育・研究ゾーン

附属中学校と附属小学校及び附属教育実践総合センターで構成する。

(2) 交流ゾーン

正門からのプロムナード及び附属中学校の中庭、附属小学校の前庭を交流ゾーンに設定する。

(3) 管理ゾーン

プロムナードの両サイドに駐車場を配置し、キャンパス南西部に新たな駐車場を計画する。

(4) シンボルエリア

附属中学校運動場の楓周辺と附属小学校の前庭及び通用門付近をシンボルエリアに設定する。

(5) バッファゾーン（緩衝地帯）

敷地南東角を中心とした道路沿い、および寺と住宅地が近接する敷地北側縁辺部をバッファゾーンとして整備する。

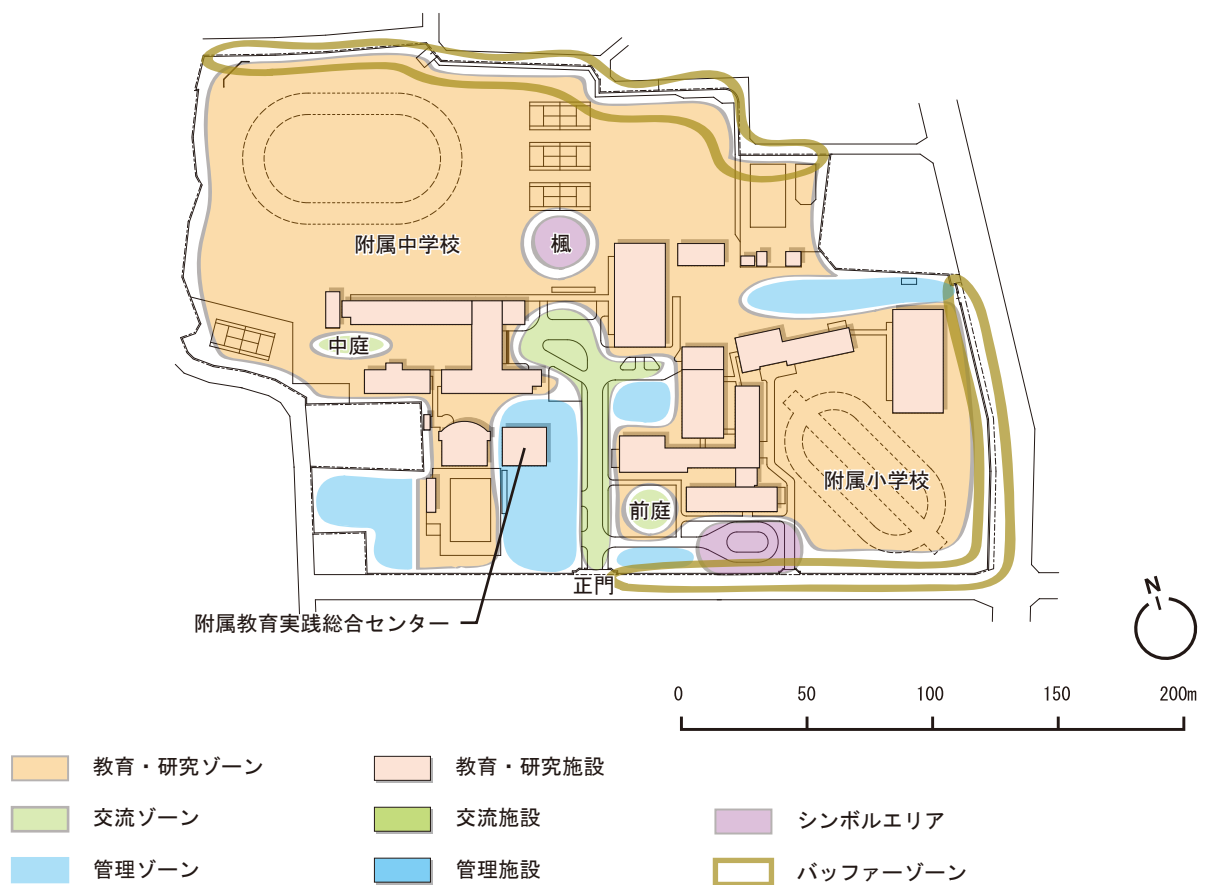


図 4-4 京町キャンパスの施設・ゾーニング計画

4-1-5 城東町キャンパスの施設・ゾーニング計画（建物配置計画）

(1) 教育・研究ゾーン

附属幼稚園で構成する。

(2) 交流ゾーン

運動場は、園児の教育施設であるとともに、保護者と園児が集う交流の場であり、また同時に当園の活動状況を通りに投げかける場でもあることから、交流ゾーンとして設定する。

(3) 管理ゾーン

北西部に駐車場を配置する。

(4) シンボルエリア

大楠周辺をシンボルエリアに設定する。

(5) バッファゾーン（緩衝地帯）

隣地境界周辺をバッファゾーンとして整備する。

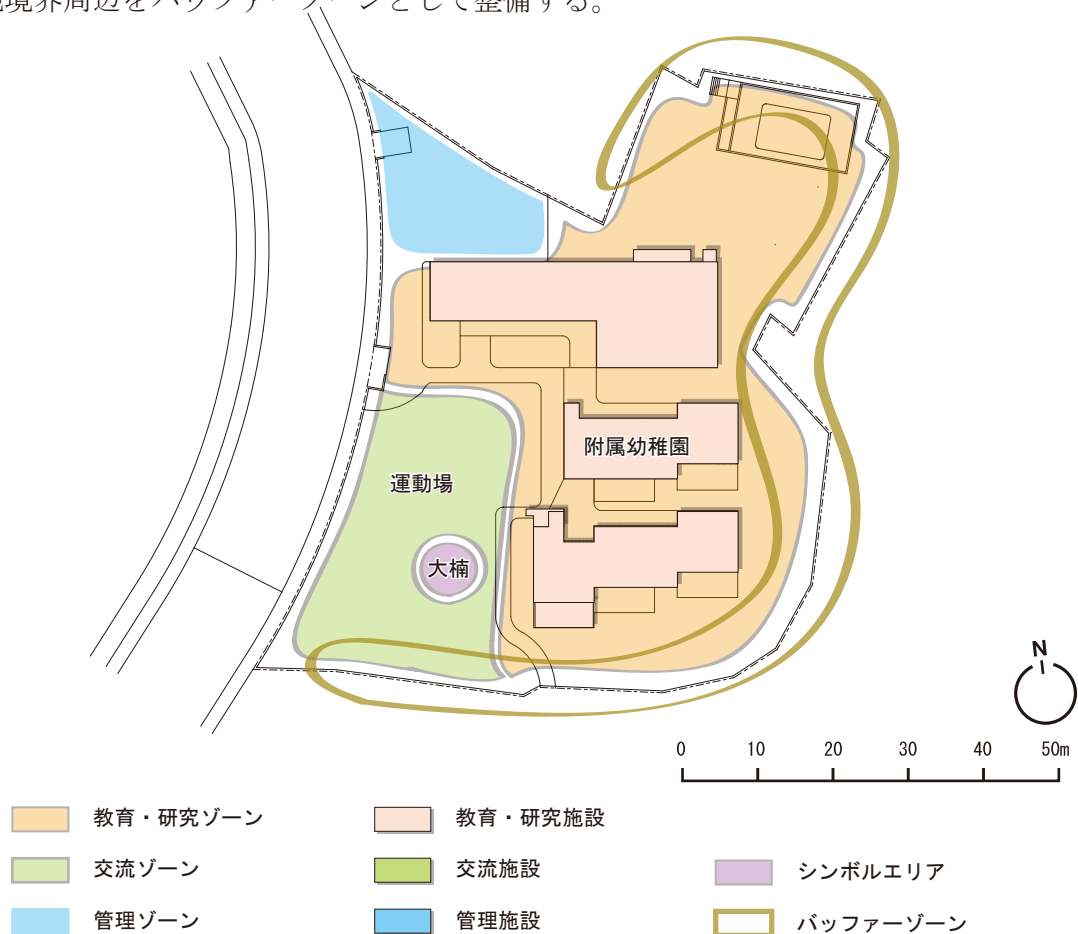


図 4-5 城東町キャンパスの施設・ゾーニング計画

4-2 動線計画・交通計画

4-2-1 黒髪キャンパスの動線計画・交通計画

(1) 歩行者動線

歩行者動線は、主要な車両動線の内側に設定し、安全で快適な歩行者空間を形成する。また、主要な車両動線の内側は、車両の進入を抑制して、歩行者の安全を図る。

サインカーブ周辺は、歩行者専用通路としてより豊かなシンボル軸の形成を図る。

(2) 車両交通

主要な歩行者動線の安全性確保のため、主要な車両動線を構内外周にループ状に配置し、車両動線と歩行者・自転車共存動線並びに歩行者専用動線との分離を図る。

ループ状に配置した主要な車両動線においては、歩車分離方式を長期的な展望で導入することを目指す。本プラン内では歩行者に配慮した歩車共存動線として整備する。

また、駐車場はループ状の主要な車両動線沿いに配置し、構内中心部への車両進入を抑制する。

(3) バイク交通

北地区は、構内出入口に近い位置にバイク置場を設置し、構内への乗り入れを制限する。附属図書館南側にバイク置場を集約し、車両動線や歩行者動線との分離を図る。附属図書館南側のバイク置場の整備は、防音等周辺環境に配慮する。

南地区も北地区同様、構内出入口に近い位置にバイク置場を設置し、構内への乗り入れを制限する。バイクの構内への進入を抑制する工夫（バリカー等）を施す。

(4) 自転車交通

北地区は、赤門から五高記念館に至るサインカーブ周辺を歩行者専用通路とし、駐輪場の設置を制限する。駐輪場を五高記念館周辺への駐輪を抑制するため黒髪北E1南側、自転車での利用が高い黒髪体育館や学生会館周辺に新設し、慢性的な駐輪場不足となっている黒髪北E1及び文学部・法学部周辺に増設する。

南地区は、車両動線上への駐輪場設置を極力避け、利用度の高い施設（黒髪南C3、黒髪南E1）周辺に駐輪場を設置する。赤門から工学部百周年記念館へ至る散策路は、黒髪南C8西側にも延長され快適な歩行者空間とするため、周辺の駐輪場配置の見直しを行う。FORICO利用者向けとして、黒髪南C4の南側に駐輪場を設置する。

(5) 駐車場、駐輪場

駐車場は、北地区でテニスコートを暫定駐車場として整備し計400台以上、南地区は北西部のまとまった暫定駐車場を中心に外周道路周辺に計500台の確保を目標とする。

バイク置場は、北地区330台、南地区で410台の確保を目標とする。

駐輪場は、北地区で2,700台、南地区で2,000台の確保を目標とする。



図 4-6 黒髪キャンパスの動線計画・交通計画

4-2-2 本荘キャンパスの動線計画・交通計画

(1) 歩行者動線

北地区では、都市軸である産業道路から入って北へ延びるプロムナードを歩行者の主要動線とする。同プロムナードに直行し、外来利用の多い第一立体駐車場及びその周辺駐車場から外来診療棟へ至るアプローチ動線は、キャンパス内で最も自動車交通量の多い道路と交差するので歩行者の安全性・快適性に配慮する。

中地区も都市軸である産業道路から入って南へ延びるプロムナードを歩行者の主要動線とする。

南地区は、門から入るアプローチ部は自動車との共存道路とし、楷樹会館から南へ歩行者・自転車共存道路を分岐させ、この道路を南地区の歩行者の主要動線とする。その先に歩行者専用動線をつなぎ、研究棟間の快適な歩行空間を確保する。

(2) 車両交通

北地区では、都市軸である産業道路から入り第一、第二立体駐車場へ向かう外来自動車動線の先にサービス自動車動線をつなぎ、全体として地区の外周部をループ状に回す。サービス自動車動線は西側の新世継橋側出入口から入る動線に重きを置く。

中地区でも都市軸である産業道路から入った自動車動線を敷地外周部にループ状に回す。

南地区は、主要出入口から主要駐車場までの動線を車両用通路とする。

(3) 駐車場、駐輪場

外来用の大規模駐車場を北地区第一立体駐車場及びその周辺に集中配置する。学生・教職員用駐車場は北・中・南地区の自動車動線の沿線に配置する。

駐輪場は、北地区の外来用を管理棟南側に、学生・教職員用を看護師宿舎南側水路上部に配置する。南地区では医学部保健学科南側に配置する。

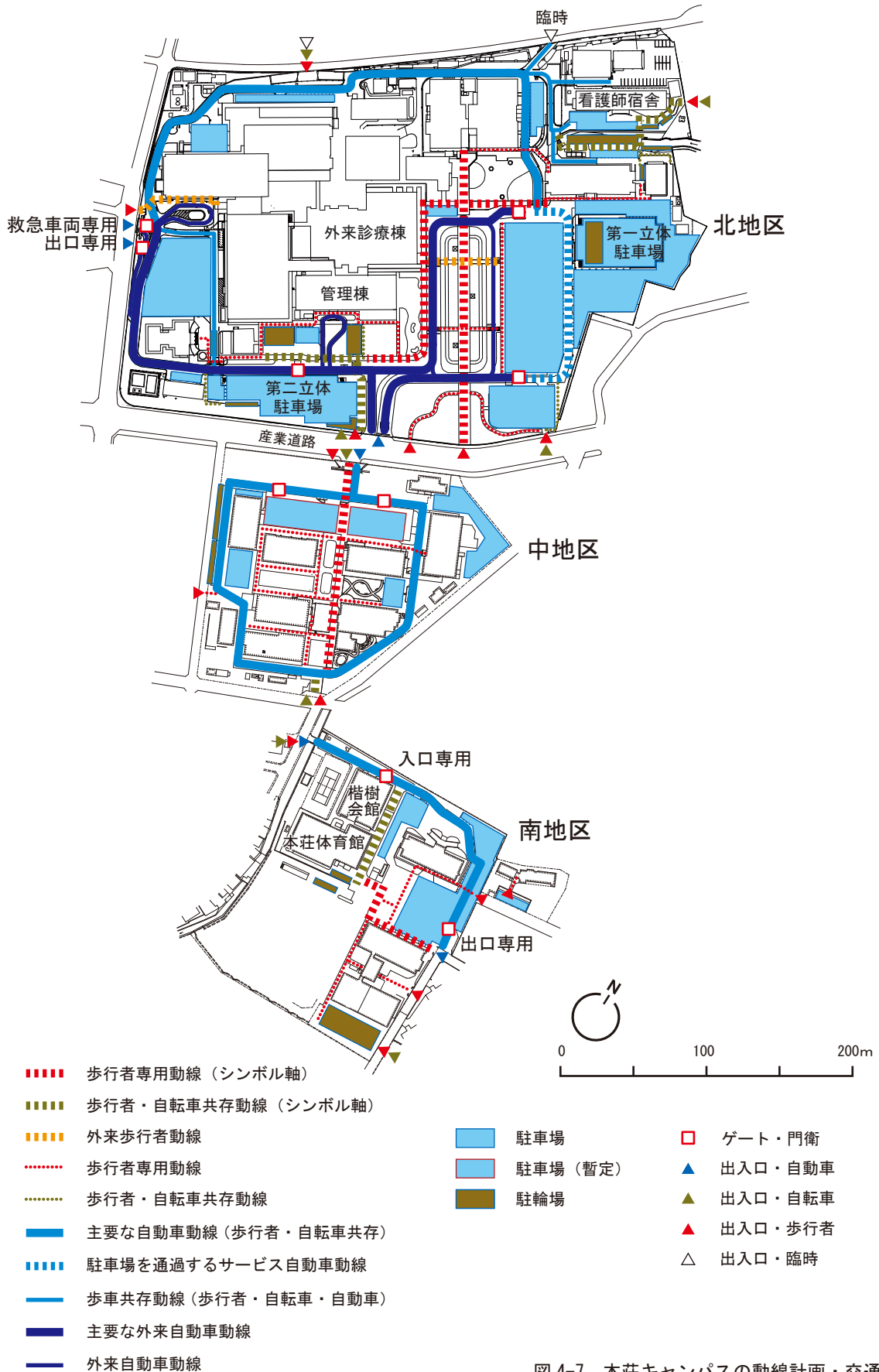


図 4-7 本荘キャンパスの動線計画・交通計画

4-2-3 大江キャンパスの動線計画・交通計画

(1) 歩行者動線

車両交通は歩車共存道路とし、同道路から歩行者・自転車道路を分岐させる。

薬用植物園へのアプローチ動線を歩行者専用道路とし、歩車共存道路および歩行者・自転車道路から分岐させる。

大江C1と蕃滋館を結ぶ動線および宮本記念館へのアプローチ動線を歩行者専用道路とする。

敷地縁辺部にあつて薬用植物園を取り囲む樹林のなかを通る散策路へは北門、正門から直接入ることができ、薬用植物園と歩行者路で結ばれるようにする。

南地区は、野球場・運動場の外周部に沿って薬用植物園まで歩行者・自転車道路を通す。

(2) 車両交通

キャンパス北地区への車両の進入は正門1箇所とし、他2箇所の出入口からは通常自転車・歩行者のみの進入とする。正門から入った車両交通は歩車共存道路とし、ループ状に周回させる。

歩行者・自転車道路および歩行者専用道路が分岐する箇所においては、歩行者の安全性快適性を確保するために車両が進入しないように路面の仕上げ等に配慮する。

(3) 駐車場、駐輪場

駐車場は、北門周辺に集中配置し、可能な限り敷地の奥に自動車が進入しないようにする。

駐輪場は、大江C4と蕃滋館周辺に集中配置する。

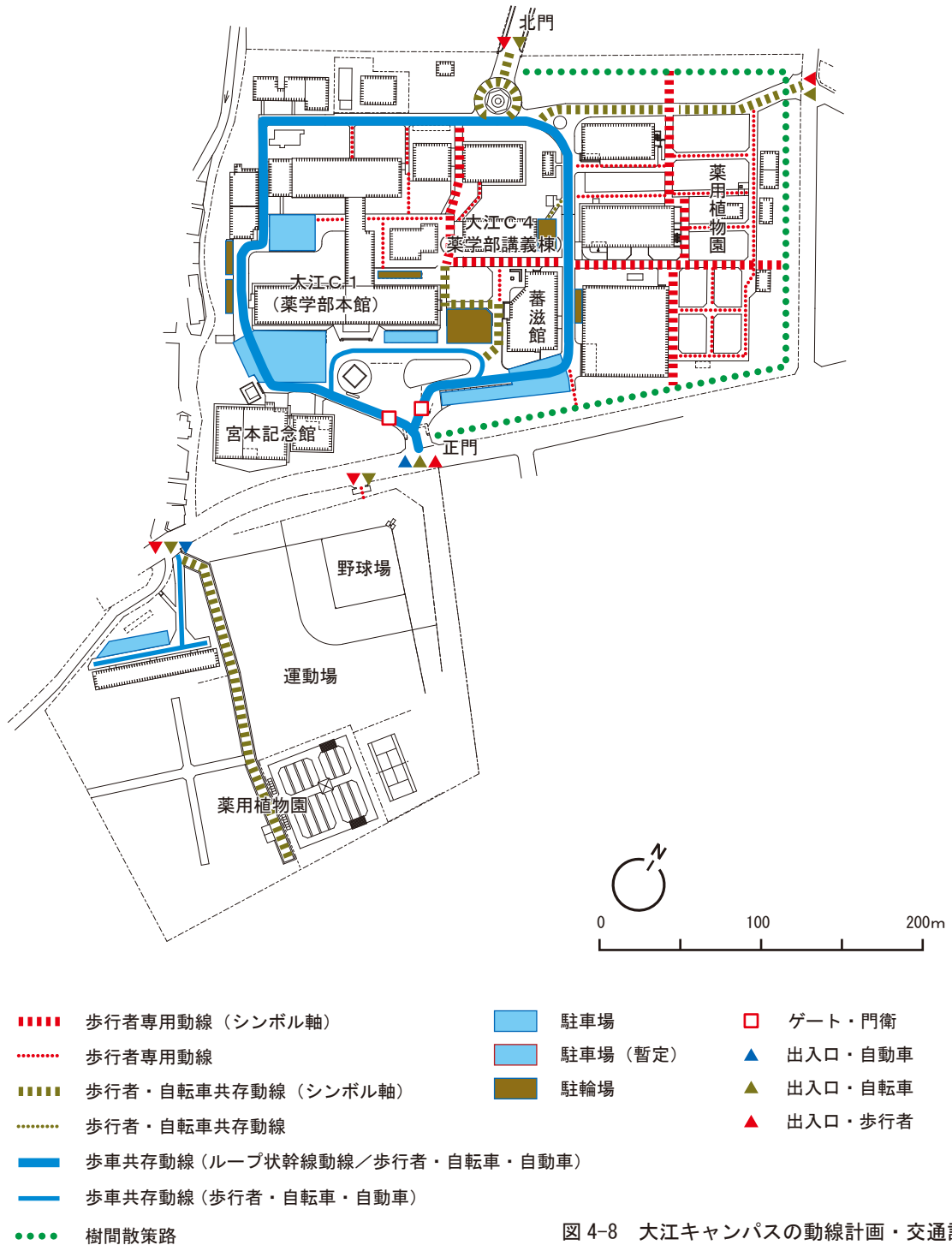


図 4-8 大江キャンパスの動線計画・交通計画

4-2-4 京町キャンパスの動線計画・交通計画

(1) 歩行者動線

正門から附属中学校玄関まで、及び附属小学校玄関までを主軸とし、校舎を周回する動線を整備する。

(2) 車両交通

正門から附属中学校玄関前の車寄せ、及び附属小学校玄関前の車寄せを主要な車両動線とする。

(3) 駐車場、駐輪場

駐車場は、主要な車両動線沿いに配置する。キャンパスの南西部に新たな駐車場を計画する。



図 4-9 京町キャンパスの動線計画・交通計画

4-2-5 城東町キャンパスの動線計画・交通計画

(1) 歩行者動線

正門から主要な歩行者動線を設定し、各園舎に通じる動線と園舎を周回する動線を設定する。

(2) 車両交通

車は、北側の専用門から進入する。

(3) 駐車場、駐輪場

駐車場はキャンパスの北隅に配置、駐輪場は正門から北側に配置することで歩行者動線との交錯を避ける。

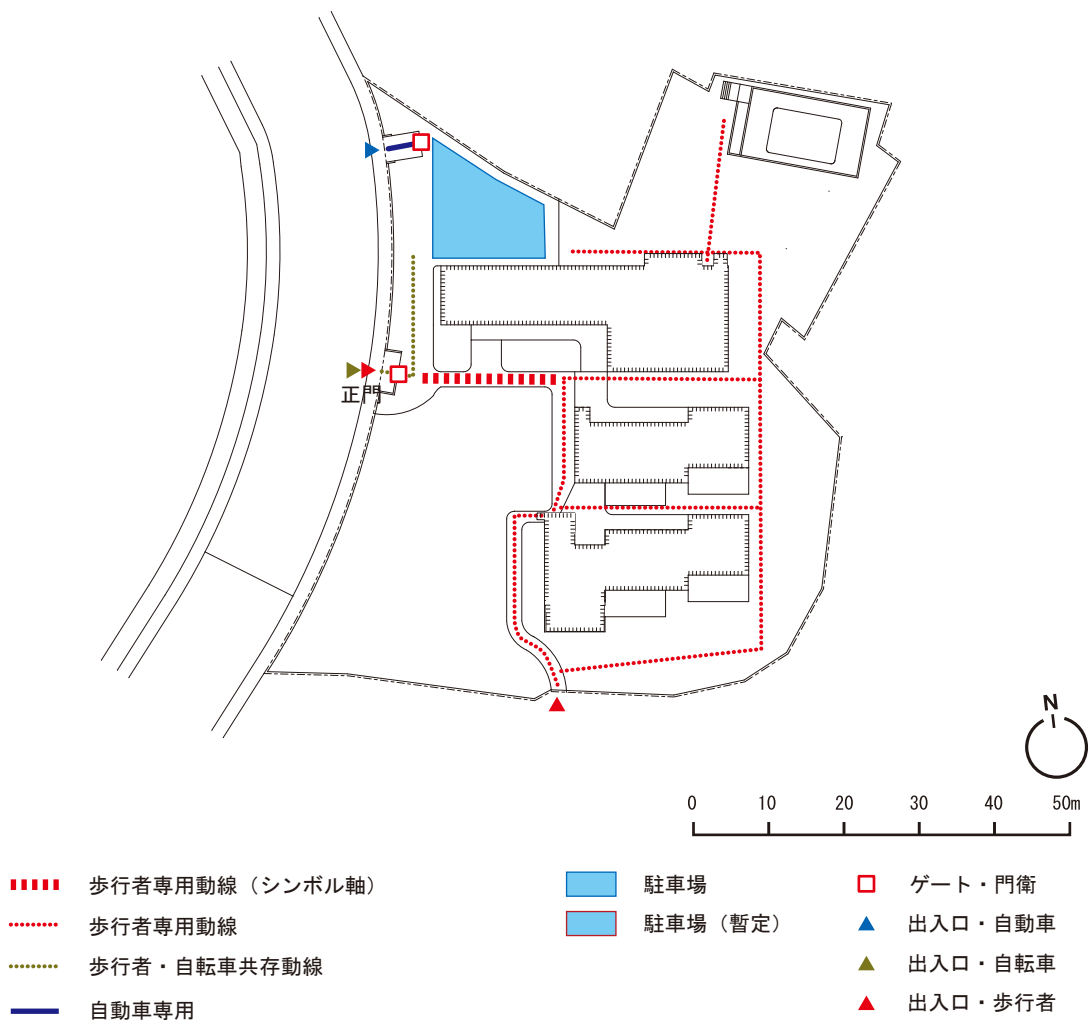


図 4-10 城東町キャンパスの動線計画・交通計画

4-3 景観計画

4-3-1 黒髪キャンパスの景観計画

(1) バッファゾーン（緩衝地帯）の形成

1) 県道沿いの景観

旧豊後街道である県道 337 号沿いは、阿蘇方面から中心市街地への導入口に当たることから、石垣や道路、樹木、夜間照明等の接道要素の管理に配慮して「学都・熊本」と「森の都・熊本」を印象づける景観形成を図る。

2) 白川周辺の景観

白川河川敷にキャンパスに面した既存の公園があるが、大学側のバックヤードと河川敷の緑地が雑然としているため、遊歩道とその南側の広場も含め河川管理者と大学による連携した環境整備が期待される。

3) 立田山自然公園アプローチ道としての景観

北地区の東側は、大学側の大木及び低い石垣が景観を構成する主要素になっているが、管理施設等については大学側のバックヤードも隣接するため、立田自然公園等への観光道路としての側面に配慮した景観形成を図る。

4) 外周道路周辺の改善

北地区の北側に面した生活道路に対して、学内のレベルより高い敷地を活かして、道路と一体的な景観整備を行うことで、大学キャンパスと周辺住宅地が調和した環境の形成を図る。

(2) 緑の維持・保全／パブリックスペース

1) 緑地の景観

シンボルゾーンのサインカーブ周辺の樹木園や大木群、武夫原東側の桜並木、南地区の銀杏並木、工学部の楠群は、適切な維持管理により保存する。

2) 交流広場

緑地は、大木群、並木などのほか、小規模な緑地広場を点在させ、また、憩いスペースとしてポケットパークを積極的に整備し、ゆとりのある良質なキャンパス空間を形成する。

(3) 歴史・自然を感じる眺望景観の整備（シンボルゾーン）

赤門前から五高記念館への眺望、県道から工学部百周年記念館への眺望は、熊本大学の歴史を象徴する空間である。前者はサインカーブに沿って視線の先の焦点が移動するのに対して、後者は視線の先の焦点が直線的に工学部百周年記念館に向かう。そのような景観特性に配慮した眺望景観の形成を図る。

(4) 景観スポットの強化

キャンパス内に点在する景観スポットとしては、彫刻、記念碑、小広場、記念樹、特徴ある小建築物、各学部玄関等があげられる。周辺の道路や背景の樹木等との調和を図り、各々の場所の持つ個性を引き出すような景観の形成を図る。



① ☆ 第五高等学校跡の碑



② ☆ ラフカディオ・ハーンの碑・レリーフ



③ ☆ 龍南健児の像



④ ☆ 夏目漱石の銅像



立田山



図 4-11 黒髪キャンパスの景観計画

4-3-2 本荘キャンパスの景観計画

(1) バッファゾーン（緩衝地帯）の形成

1) 産業道路の景観

街路樹と一体となって緑の都市軸を形成するよう敷地際の樹木を育成する。

2) 白川周辺の景観

白川河川管理道路に沿った北地区北側の緑地及び新世継橋から産業道路に抜ける道路沿線の緑地において、白川の景観整備と調和した樹木の育成を図る。

3) 都市公園との調和

北地区東側に隣接する小松原公園、南地区南側に隣接する西原公園と調和したエントランス景観を整備する。

(2) 緑の維持・保全／パブリックスペース

1) 景観軸の形成

北・中・南の各地区を南北に通るプロムナードにおける並木等の緑化によって景観軸を際立たせ、本荘キャンパス全体の景観的な連続一体化を図る。

2) シンボル樹木の保全

山崎記念館前の楷樹をはじめとして、中地区北側に植えられた記念樹、中央診療棟西側駐車場にある楠群等のシンボル樹木を保全する。

3) 広場の緑化

景観軸周辺および施設隣棟間の広場の緑化を適切に行い憩いとくつろぎの場を提供する。

(3) 歴史・自然を感じる眺望景観の整備（シンボルゾーン）

1) 水路（井手）沿いの景観

慶長年間に加藤清正が開削したと言われる中地区と南地区の間を流れる二の井手、北地区を貫通する三の井手を尊重し本荘キャンパスの景観の個性化を図る。

2) 白川周辺の景観

キャンパスの北に白川のオープンスペースがあることを（キャンパス内において）喚起するような樹種と剪定手法を用いる。

(4) 景観スポットの強化

1) 記念建造物周辺の景観整備

山崎記念館、肥後医育記念館を景観として際立たせ、周辺に憩いの広場を提供する。

2) 銅像、記念樹周辺の景観整備

中地区正門西側の緑地内をはじめとする銅像や記念樹周辺の環境を整える。



図4-12 本荘キャンパスの景観計画

4-3-3 大江キャンパスの景観計画

(1) バッファゾーン（緩衝地帯）の形成

1) キャンパス外周道路沿いの樹木の育成・管理

敷地周辺道路に沿ったキャンパス敷地縁辺部の緑化によって周辺市街地に良好な景観を提供する。北地区西側の周辺道路沿いには楠の大木が育っており、樹木の生育に合せた柵塀の移動等を適正に行う。北門周辺では民家が迫っているため剪定に配慮しながら樹木の育成管理を行う。

2) 正門周辺に地域の「緑の回廊」の形成

正門前の道路には北地区、南地区両側から緑のトンネルを投げかけている。薬学部キャンパス全体が地域の緑の拠点となっていることを外部に表出する箇所として、「緑の回廊」を形成する。

(2) 緑の維持・保全／パブリックスペース

1) 景観軸の形成

北門から正門、宮本記念館に至るルート「景観軸」として路面や植栽を連続させることで、キャンパスの景観的統一感を創出する。

2) 薬用植物園の景観整備

第一義的には研究庭園としての整備を先行させながら、外部からの見学者の受け入れにも対応した回遊ルートや休憩スペース等の整備を行う。

3) 樹間散策路の景観整備

薬用植物園の外周部を巡る北門から正門に至る木立の中の散策路を、研究植物であることに配慮しながら、路面等の景観整備を行う。

(3) 歴史・自然を感じる眺望景観の整備（シンボルゾーン）

1) 北門への眺望

電車通り側から北門アプローチ道路を、北門を正面にして左右対称の透視図効果を強調した眺望景観を形成する。

2) 薬用植物園への眺望

北門、正門からアプローチし薬用植物園に近づいた時の期待感を膨らませるような眺望景観を形成する。

(4) 景観スポットの強化

1) 北門周辺

北門周辺の銅像や大樹を顕彰し、憩いの場となる周辺環境を整備する。

2) 正門・宮本記念館周辺

宮本記念館周辺の銅像、樟の大樹を顕彰し、憩いの場となる周辺環境を整備する。



図 4-13 大江キャンパスの景観計画

4-3-4 京町キャンパスの景観計画

(1) バッファゾーン（緩衝地帯）の形成

キャンパスの南東角は旧国道3号に接する交差点であり、キャンパスの存在感を示す象徴的な景観として整備する。

(2) 緑の維持・保全／パブリックスペース

附属中学校運動場にある楓の木はシンボル樹として保存する。また、キャンパス内の樹木を保全し、熊本城に近接し、かつ京町台地に位置するキャンパスにふさわしい緑地景観を形成する。

(3) 歴史・自然を感じる眺望景観の整備（シンボルゾーン）

正門からのメインアプローチは、シンボルゾーンにふさわしい景観として整備する。
附属中学校運動場から西側に向けた眺望を確保するようにキャンパス西側の景観を保全する。

(4) 景観スポットの強化

キャンパス南側にある緑や記念碑等の周辺を景観スポットとして整備する。



図 4-14 京町キャンパスの景観計画

4-3-5 城東町キャンパスの景観

(1) バッファーズゾーン（緩衝地帯）の形成

坪井川沿いの景観は、城域側からの視線にも配慮する。
隣地境界は、セキュリティに留意し、緑化により緩衝ゾーンを形成する。

(2) 緑の維持・保全／パブリックスペース

シンボルである大楠を保存し、バッファーズゾーンの樹木を保全する。

(3) 歴史・自然を感じる眺望景観の整備（シンボルゾーン）

運動場やベランダ及びキャンパス東側から園舎越しの熊本城天守閣への眺望を確保する。
大楠への視線を確保し、園内の一体感を喚起する。

(4) 景観スポットの強化

大楠の足元や熊本城天守閣への視点場を景観スポットとして整備する。

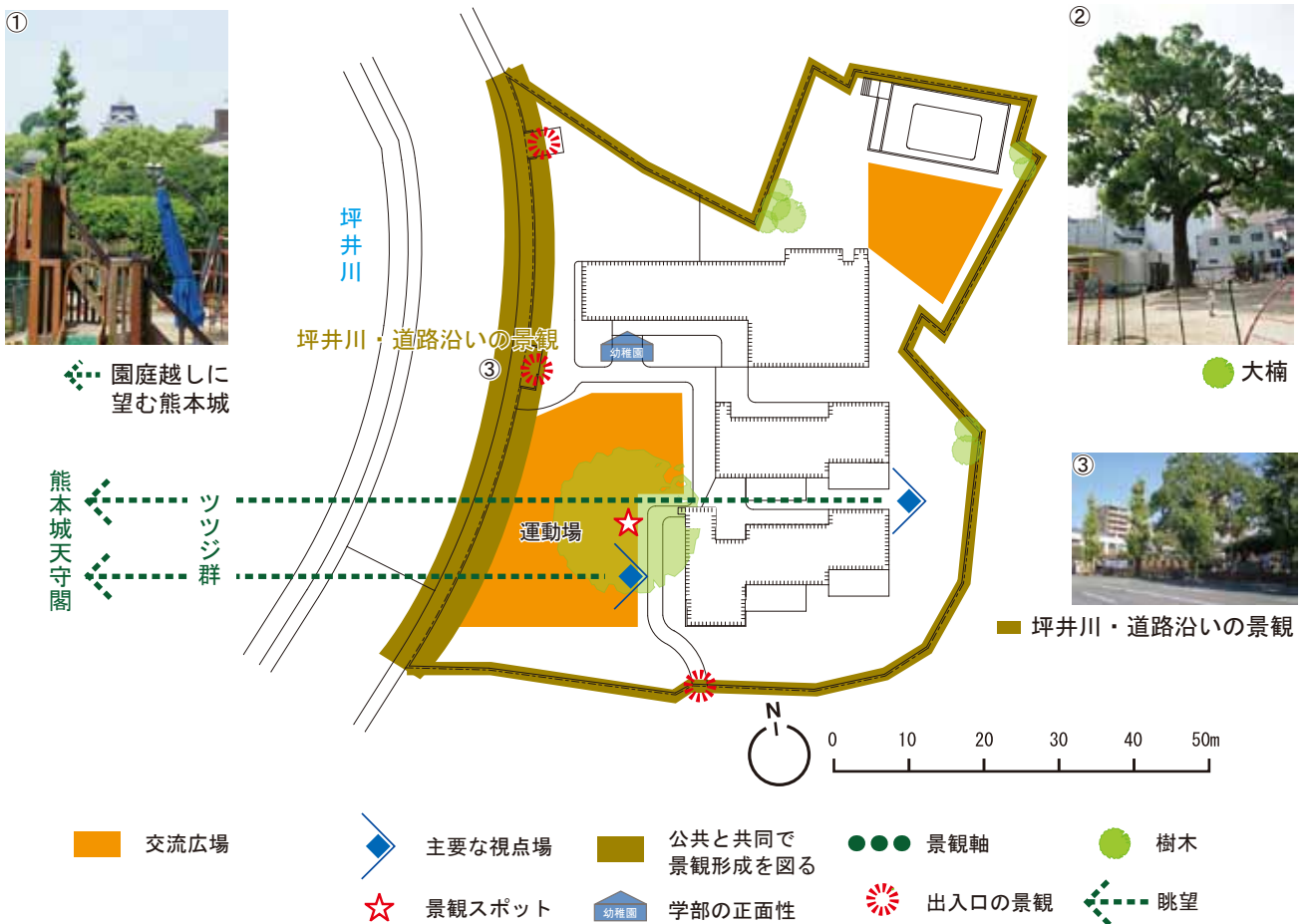


図 4-15 城東町キャンパスの景観計画

4-4 インフラストラクチャー計画

4-4-1 黒髪キャンパスのインフラストラクチャー計画



図 4-16 黒髪キャンパスの電力設備計画

(1) 電力設備計画

□現状

①附属特別支援学校等を除く北地区

引き込み：6.6kV 1回線／変電所：9箇所

②附属特別支援学校等

引き込み：6.6kV 1回線／変電所：2箇所

③南地区

引き込み：22kV 1回線(本線)、6.6kV 1回線(予備)／変電所：21箇所

□計画

耐用年数を超過した受配電設備等の更新を行う。

建物の新築・増築・改修に合わせて太陽光発電設備の整備を行う。

南地区については、電力の安定供給化を図るため、予備電力の特別高圧化による22kV 2回線受電化を行う。

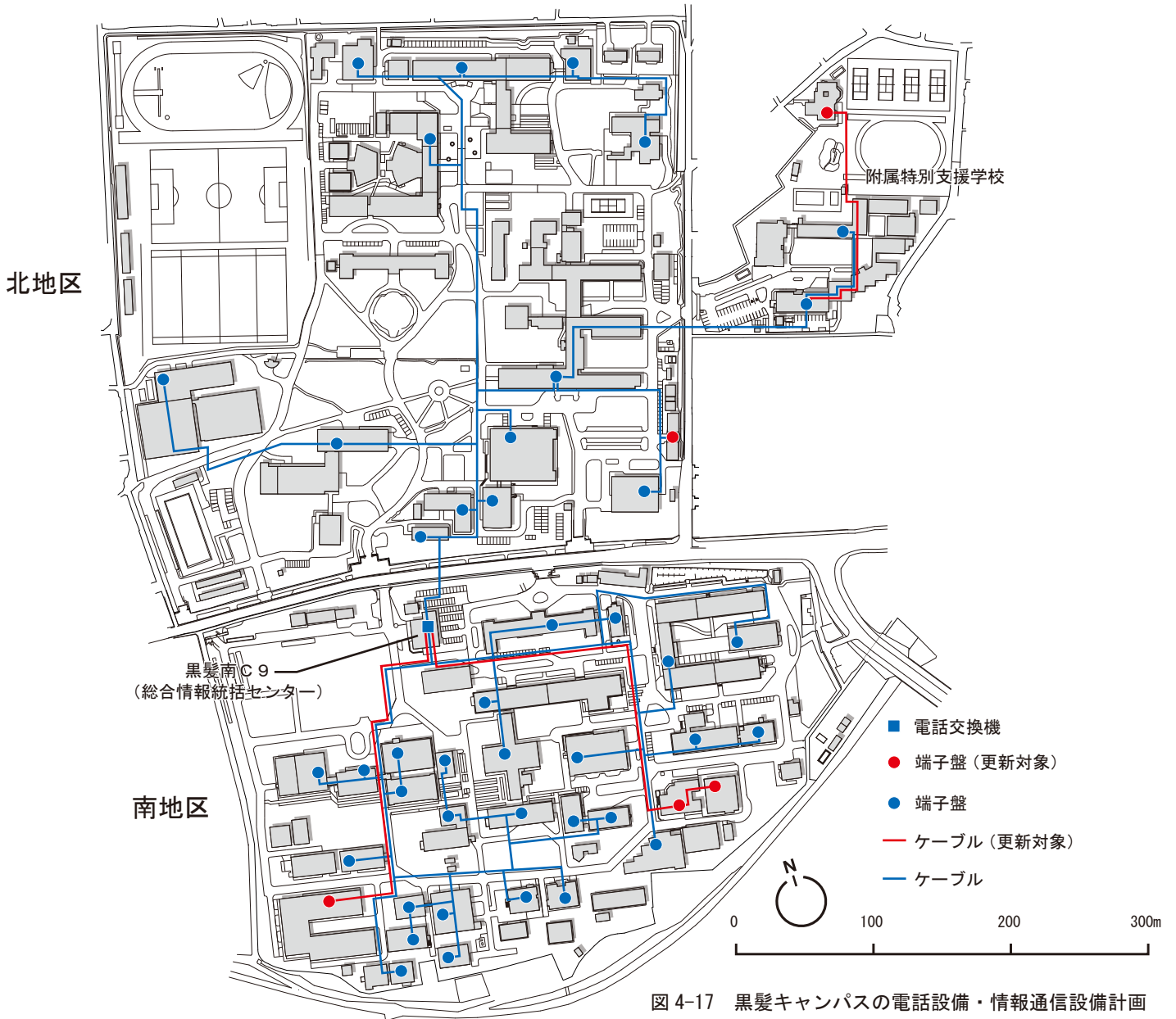


図4-17 黒髪キャンパスの電話設備・情報通信設備計画

(2) 電話設備計画

□現状

局線数：INS 1 500 3回線
 /アナログ 5回線
 内線数：1,622 回線

□計画

耐用年数を超過した通信ケーブル等の更新を行う。

(3) 情報通信設備計画

□現状

黒髪南C9より、各建物へ光ケーブルの敷設を行っている。

□計画

建物の新築・増築・改修に伴い情報通信網の充実を図る。

4-4 インフラストラクチャー計画



図 4-18 黒髪キャンパスの空気調和設備計画

(4) 空気調和設備計画

□現状

- ①附属特別支援学校等を除く北地区
設置後20年未満のものだけである。
- ②附属特別支援学校等
黒髪北 E13 は、設置後20年を経過している。
- ③南地区
黒髪南 S 9、黒髪南 E 6 は設置後20年を経過している。

□計画

空調方式については、イニシャル及びランニングコスト等を考慮しながら計画する。
再開発当初の建物が築後18年を経過しているため、老朽化した空調機器を順次更新する。

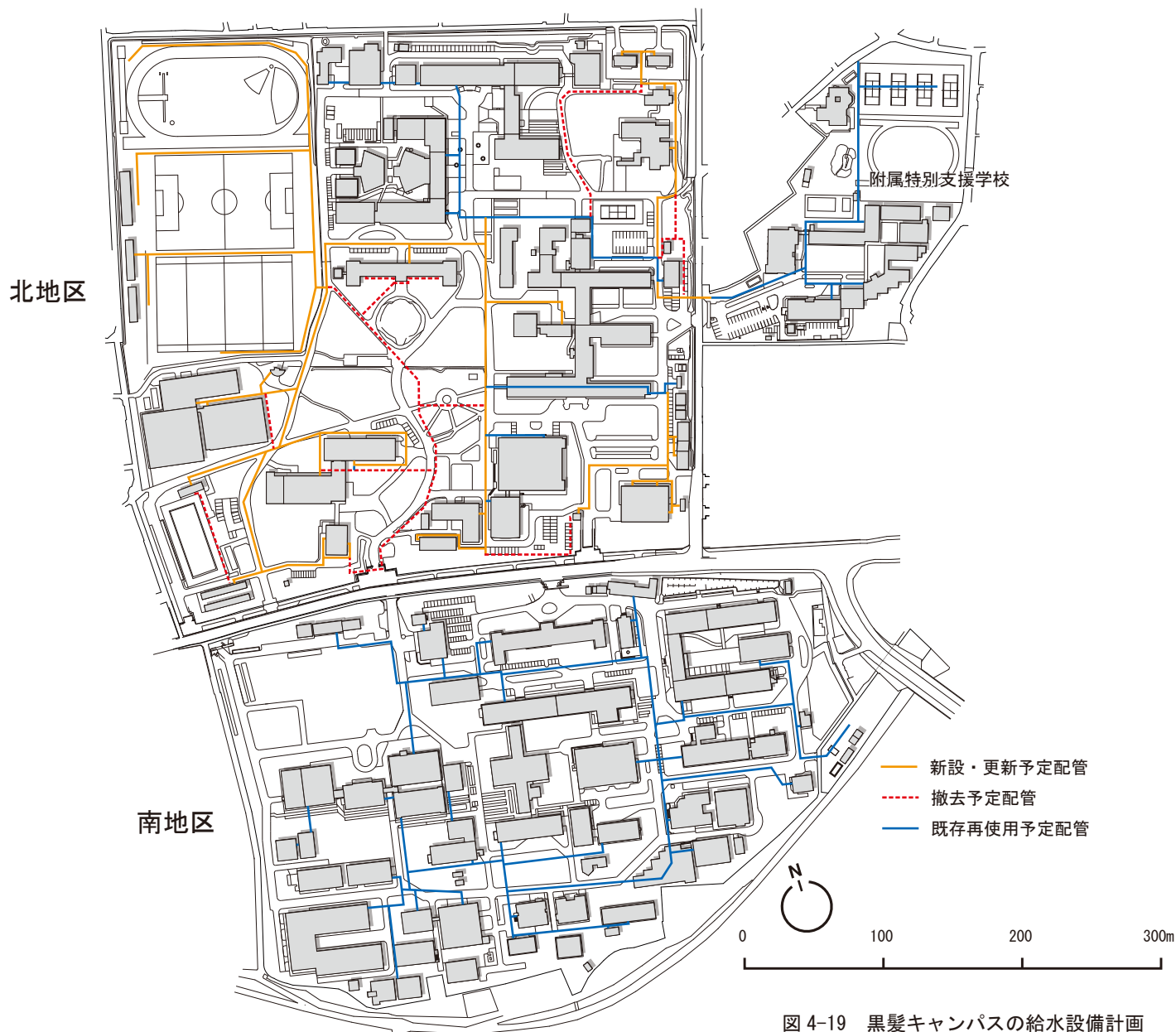


図 4-19 黒髪キャンパスの給水設備計画

(5) 給水設備計画

□現状

①附属特別支援学校等を除く北地区

深井戸 2 本、給水ろ過および供給設備 1 箇所。
共同溝は铸铁管またはポリエチレン管で整備している。
埋設配管は铸铁管、ライニング鋼管で整備を行っている。

②附属特別支援学校等

北地区より供給。
ポリエチレン管やライニング鋼管へ更新が完了している。

③南地区

深井戸 1 本、給水ろ過および供給設備 1 箇所。
共同溝、埋設配管共ポリエチレン管やライニング鋼管へ更新が完了している。

□計画

北地区の配管について、耐震性、耐食性の高いポリエチレン管等へ順次更新する。

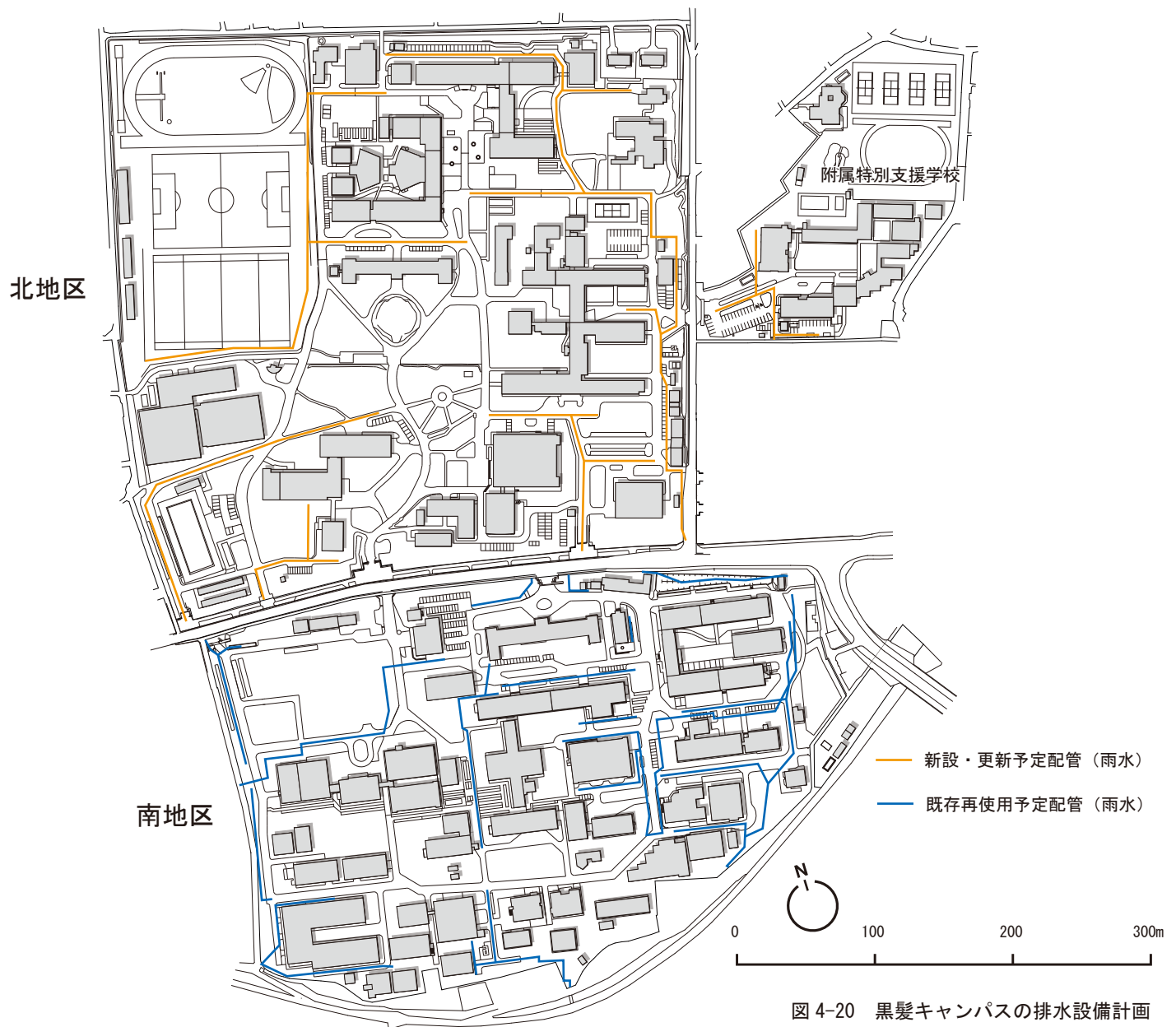


図 4-20 黒髪キャンパスの排水設備計画

(6) 排水設備計画

□現状

- ①特別支援学校等を除く北地区
幹線および一部建物廻り排水は合流式。
- ②特別支援学校等
幹線は合流式
- ③幹線は分流式で一部建物廻り排水は合流式。

□計画

北地区の雨水排水を整備し分流化を行う。
合流式となっている一部の建物廻りについて分流化を行う。

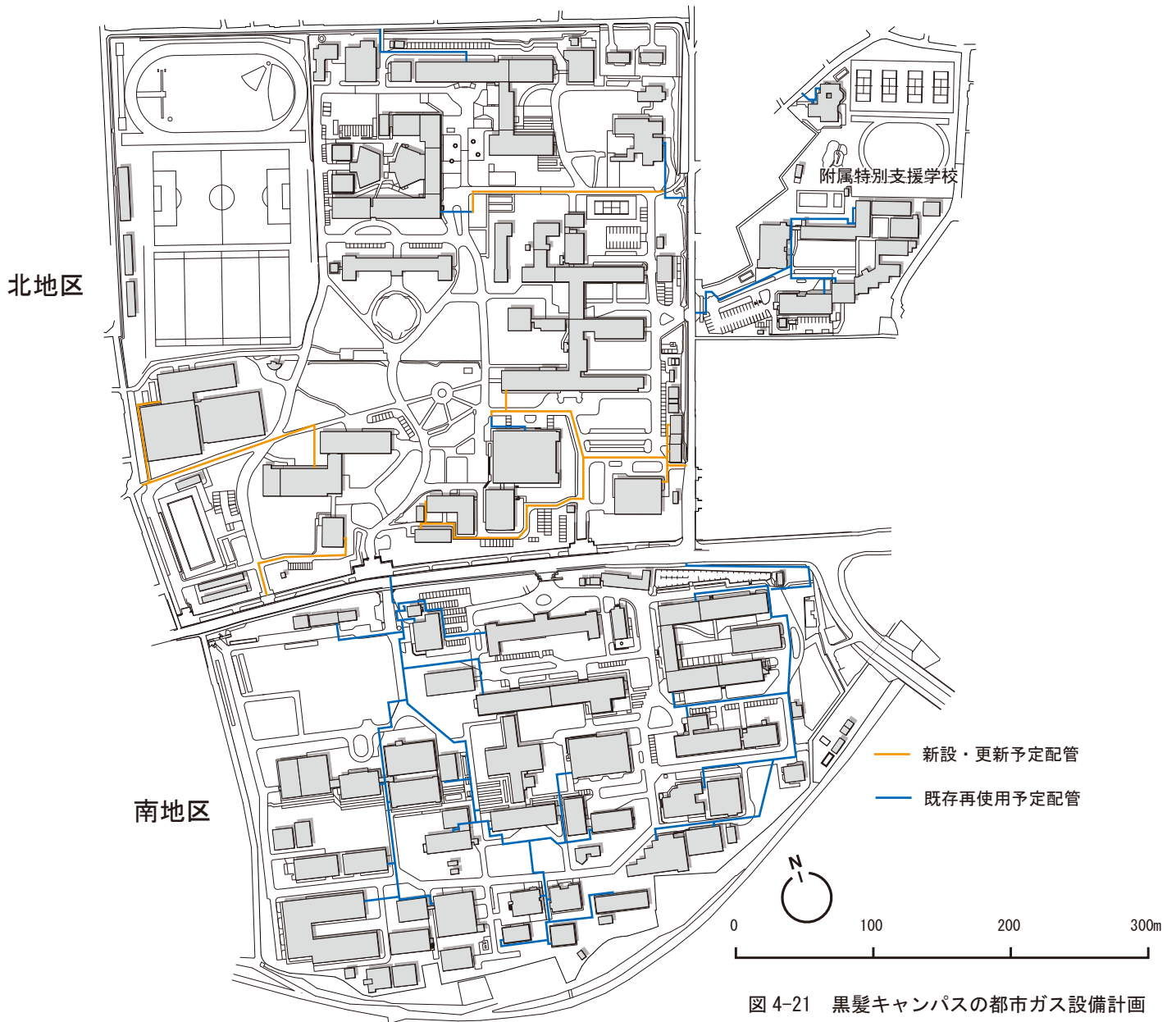


図 4-21 黒髪キャンパスの都市ガス設備計画

(7) 都市ガス設備計画

□現状

- ①附属特別支援学校等を除く北地区
埋設配管の60%以上が経年30年を超えている。
- ②附属特別支援学校等
引き込み系統 2系統
埋設配管は、ポリエチレン管へ更新が完了している。
- ③南地区
引き込み系統 2系統
埋設配管は、ポリエチレン管へ更新が完了している。

□計画

北地区の埋設配管について、耐震性、耐食性の高いポリエチレン管等へ順次更新する。

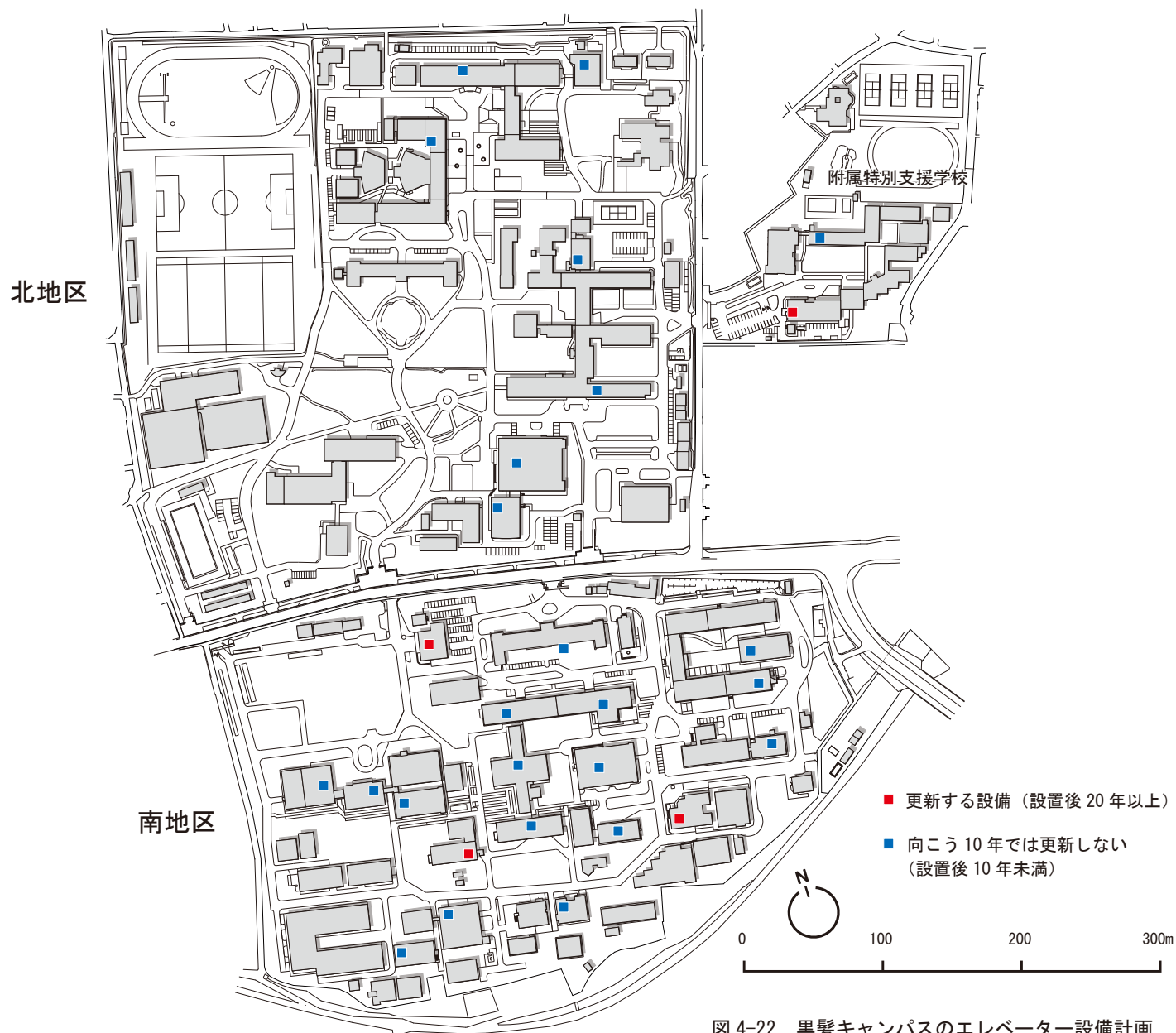


図4-22 黒髪キャンパスのエレベーター設備計画

(8) エレベーター設備計画

□現状

- | | | |
|------------------|-----|----------------|
| ①附属特別支援学校等を除く北地区 | 7基 | (内経年20年以上: 0基) |
| ②附属特別支援学校等 | 2基 | (内経年20年以上: 1基) |
| ③南地区 | 19基 | (内経年20年以上: 3基) |

□計画

経年20年以上のものについては、取替を計画する。また、経年20年未満のものについても、建築基準法既存不適格事項の解消を進める。

4-4-2 本荘キャンパスのインフラストラクチャー計画

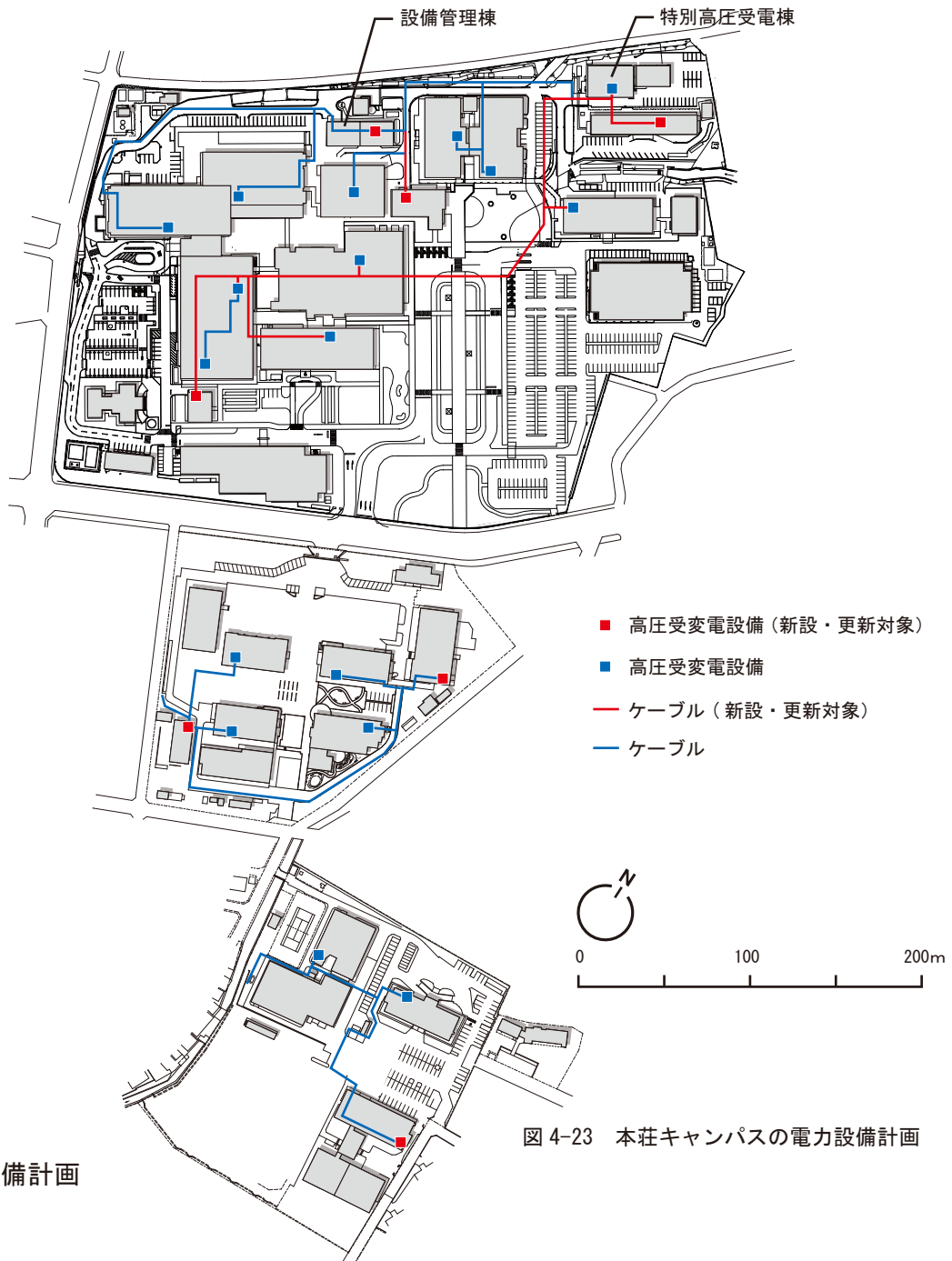


図 4-23 本荘キャンパスの電力設備計画

(1) 電力設備計画

□現状

①北地区

引き込み：66kV 1回線（本線）、66kV 1回線（予備）／変電所：15箇所

②中地区

引き込み：6.6kV 1回線（本線）、6.6kV 1回線（予備）／変電所：6箇所

③南地区

引き込み：6.6kV 1回線／変電所：3箇所

□計画

北地区については、高圧配電盤等の更新を行い、設置場所を設備管理棟から特別高圧受電棟に変更する。

中・南地区については、耐用年数を超過した受配電設備及び高圧ケーブル等の更新を行う。

また、建物の新築・増築・改修に合わせて太陽光発電設備の整備を行う。

4-4 インフラストラクチャー計画

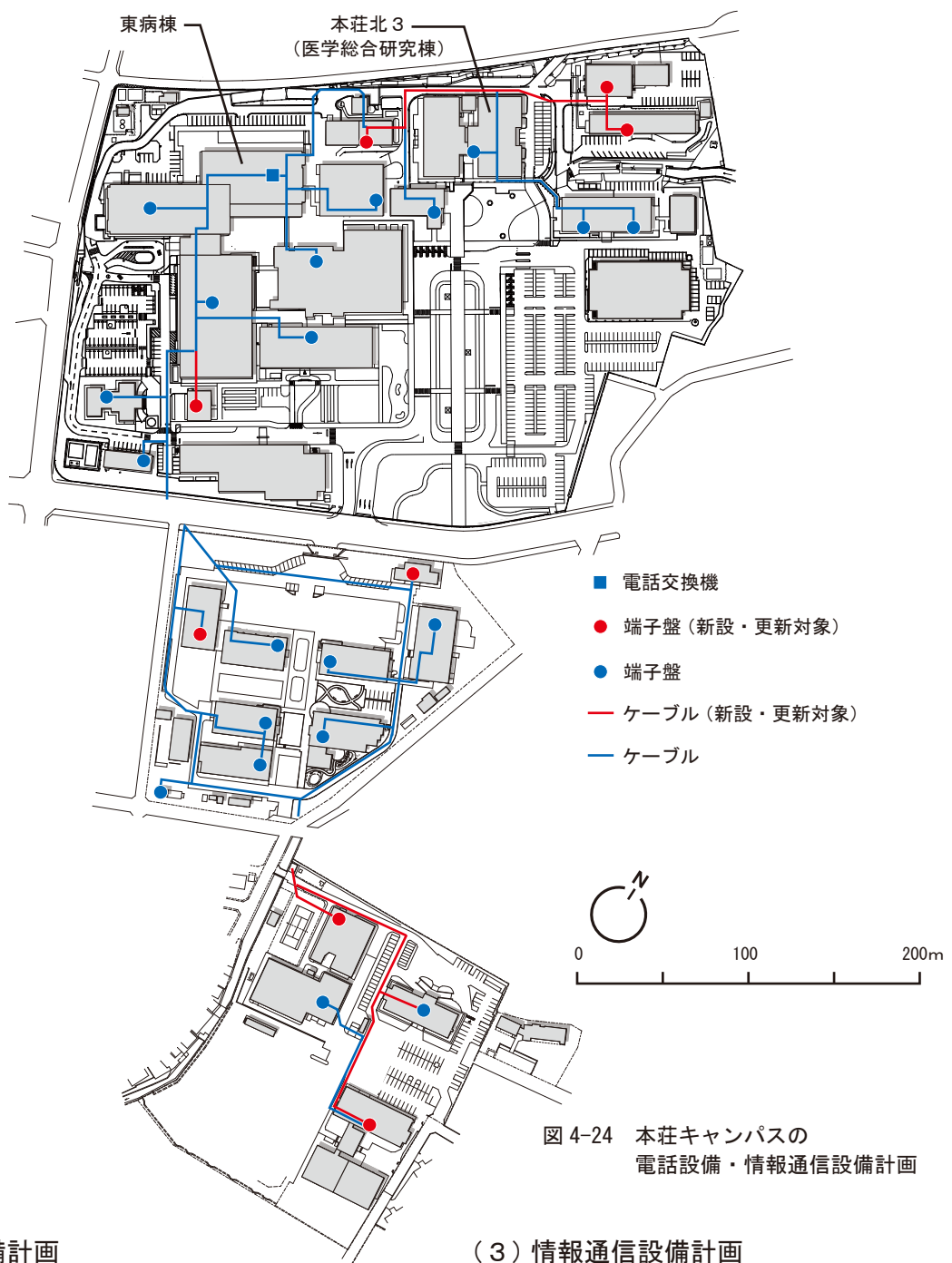


図 4-24 本荘キャンパスの
電話設備・情報通信設備計画

(2) 電話設備計画

□現状

局線数：INS1500 2回線／アナログ5回線
内線数：1,789回線

□計画

①北地区

附属病院再整備計画に合わせて通信ケーブル等の更新を行う。

②中地区・南地区

耐用年数を超過した通信ケーブル等の更新を行う。

(3) 情報通信設備計画

□現状

学内ネットワークにおいては、本荘北3より、各建物へ光ケーブルの敷設を行っている。

□計画

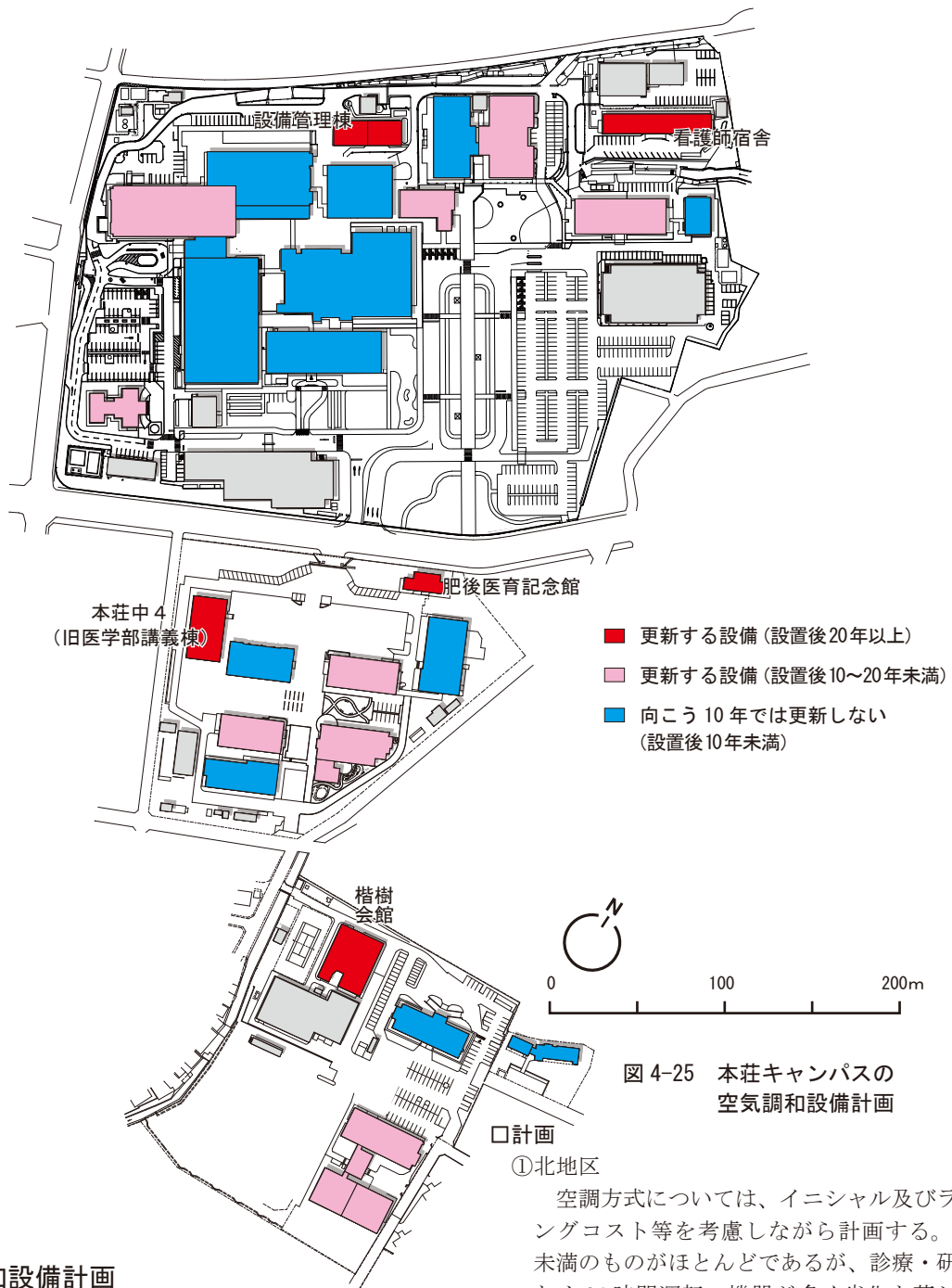
①北地区

附属病院再整備計画に合わせて情報通信網の充実を図る。

②中地区・南地区

建物の新築・増築・改修に伴い情報通信網の充実を図る。

4-4 インフラストラクチャー計画

図 4-25 本荘キャンパスの
空気調和設備計画

(4) 空気調和設備計画

□現状

①北地区

新設・更新対象のうち、看護師宿舎および設備管理棟は、設置後20年を経過している。

②中地区

新設・更新対象のうち、本荘中4および肥後医育記念館は、設置後20年を経過している。

③南地区

新設・更新対象のうち、福利施設である楷樹会館は、設置後20年を経過している。

□計画

①北地区

空調方式については、イニシャル及びランニングコスト等を考慮しながら計画する。20年未満のものがほとんどであるが、診療・研究のため24時間運転の機器が多く劣化も著しい。また、修理用部品の供給が無いものもあるため、設置後10年未満の機器でも劣化状況に応じて順次更新する。

②中地区

空調方式については、イニシャル及びランニングコスト等を考慮しながら計画する。設置後20年未満のものがほとんどであるが、研究のため24時間運転の機器が多く劣化も著しいため、設置後10年未満の機器でも劣化状況に応じて順次更新する。

③南地区

空調方式については、イニシャル及びランニングコスト等を考慮しながら計画する。

4-4 インフラストラクチャー計画

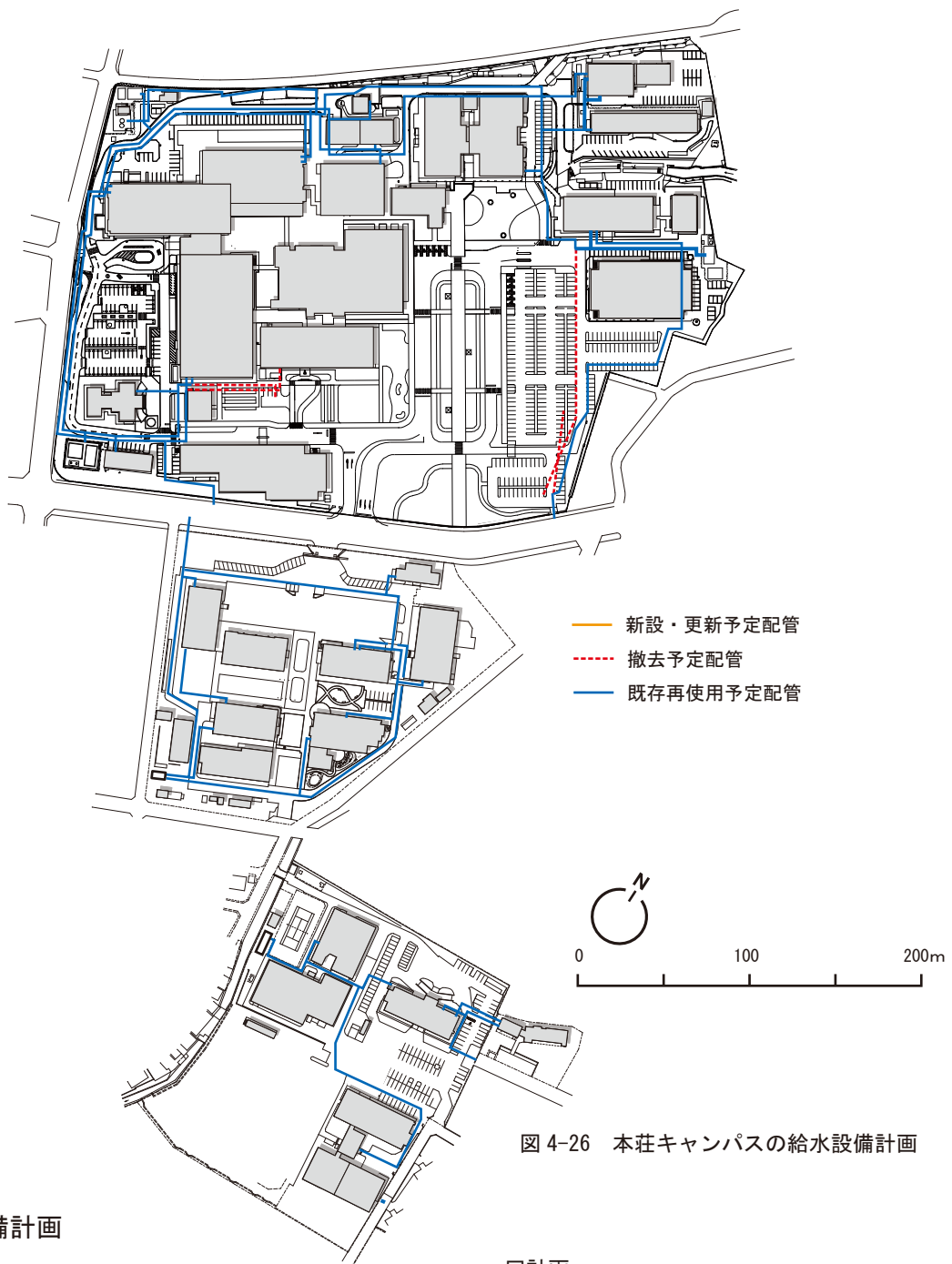


図 4-26 本荘キャンパスの給水設備計画

(5) 給水設備計画

□現状

①北地区

深井戸 3 本、給水ろ過および供給設備 3 箇所
共同溝内は、ライニング鋼管、埋設配管は、ダ
クタイル鋳鉄管またはポリエチレン管で整備を
行っている。

②中地区

深井戸 1 本、給水ろ過および供給設備 1 箇所
埋設配管は、ポリエチレン管または外面被覆鋼
管で整備を行っている。

③南地区

深井戸 1 本、給水ろ過および供給設備 1 箇所
埋設配管は、ポリエチレン管で整備を行っている。

□計画

①北地区

病院再開発整備に合わせて給水設備の整
備を行う。

②中地区・南地区

建物の新築・増築・改修に合わせて設備
の充実を図る。

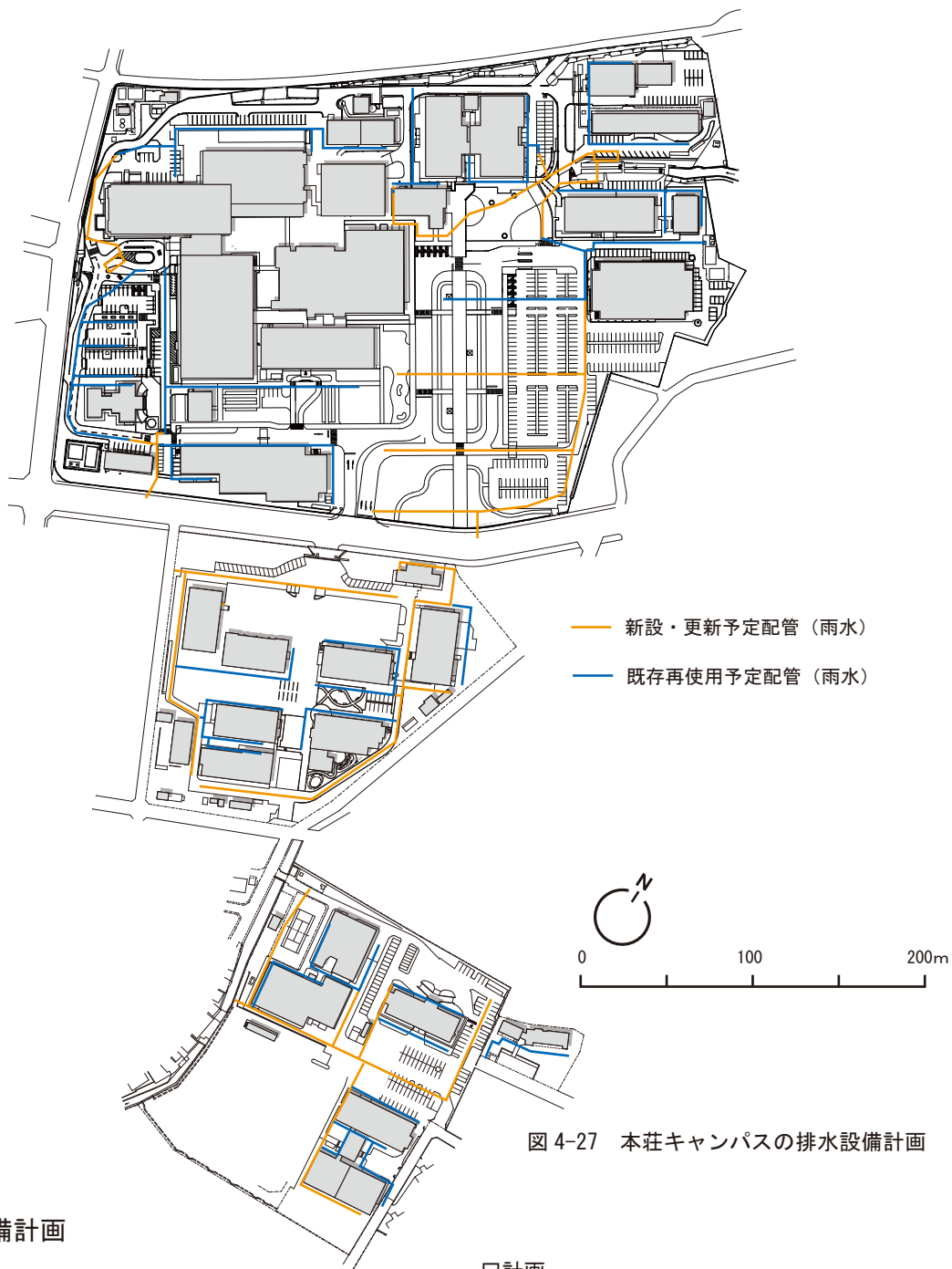


図 4-27 本荘キャンパスの排水設備計画

(6) 排水設備計画

□現状

- ①北地区
幹線は合流式
- ②中地区
幹線は合流式
- ③南地区
幹線・建物廻り排水は一部合流式

□計画

- ①北地区
敷地を横断している農業用水路を考慮しながら、支障のない範囲で、雨水排水を整備し排水の分流化を行う。
- ②中地区・南地区
雨水排水を整備し分流化を行う。また、合流式となっている一部の建物廻りについて分流化を行う。

4-4 インフラストラクチャー計画

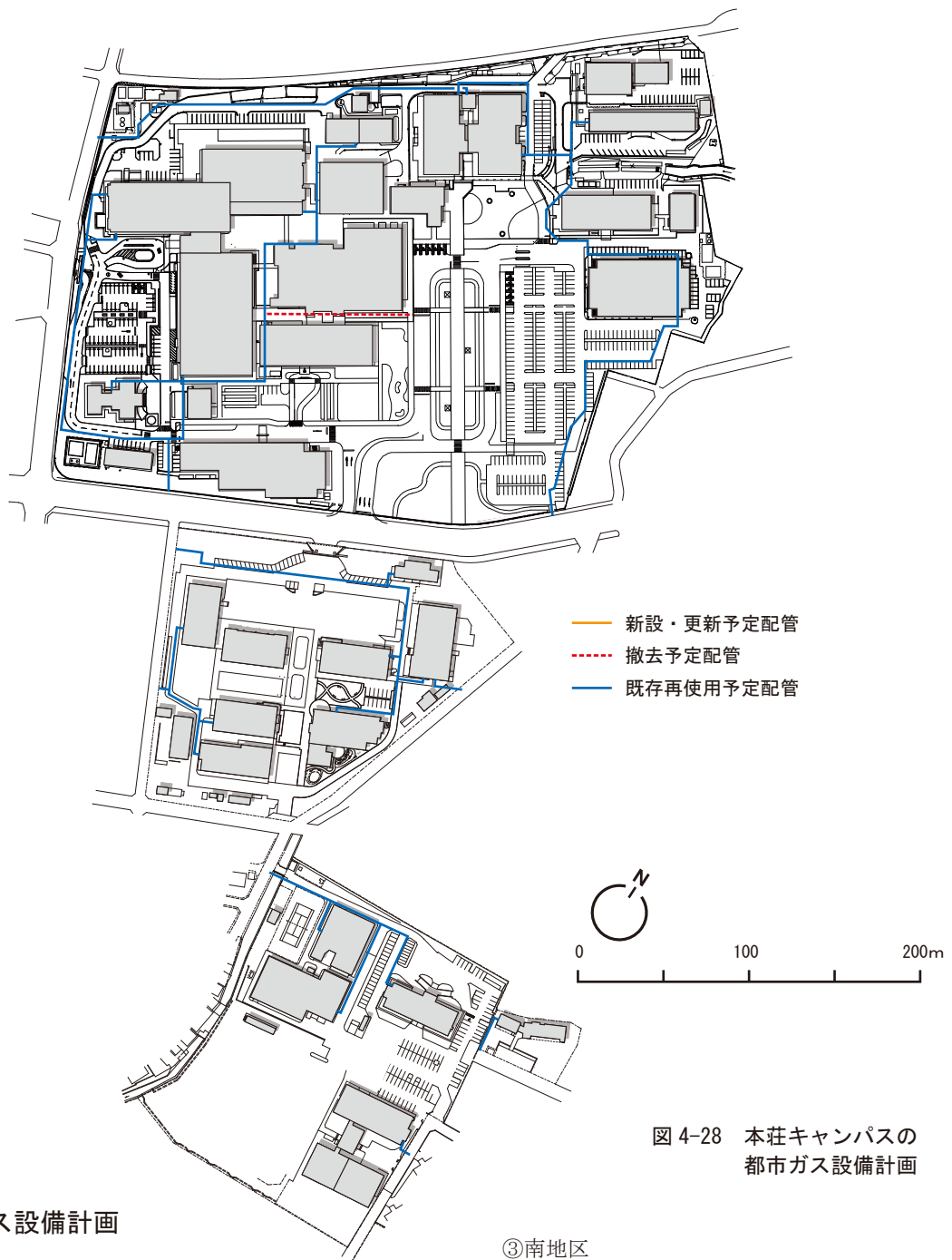


図 4-28 本荘キャンパスの都市ガス設備計画

(7) 都市ガス設備計画

□現状

①北地区

引き込み系統 3系統 (低圧2、中圧1)

低圧の埋設配管は、ポリエチレン管で整備を行っている。取り壊し予定建物の埋設配管に白ガス管の使用がある。中圧は外面被覆鋼管で整備を行っている。

②中地区

引き込み系統 3系統 (低圧2、中圧1)

低圧の埋設配管は、ポリエチレン管へ更新が完了している。中圧は外面被覆鋼管で整備を行っている。

③南地区

引き込み系統 3系統

埋設配管は、ポリエチレン管へ更新が完了している。

□計画

①北地区

病院再開発整備に合わせて都市ガス配管の整備を行う。

②中地区・南地区

建物の新築・増築・改修に合わせて設備の充実を図る。

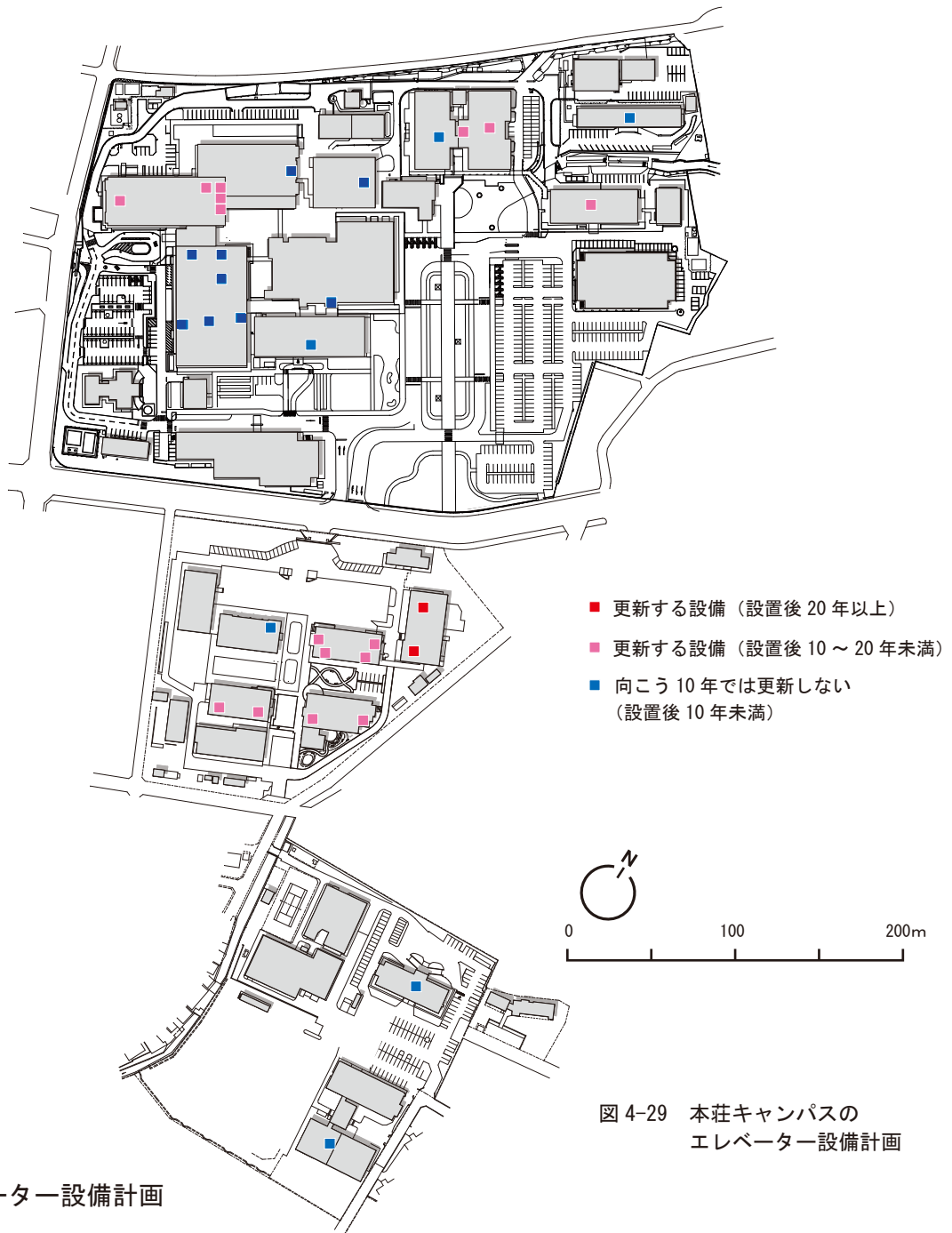


図 4-29 本荘キャンパスの
エレベーター設備計画

(8) エレベーター設備計画

□現状

- ①北地区 30 基 (内経年 20 年以上 : 0 基)
- ②中地区 11 基 (内経年 20 年以上 : 2 基)
- ③南地区 2 基 (内経年 20 年以上 : 0 基)

□計画

経年 20 年以上のものについては、取替を計画する。また、経年 20 年未満のものについても、建築基準法既存不適格事項の解消を進める。

4-4-3 大江キャンパスのインフラストラクチャー計画

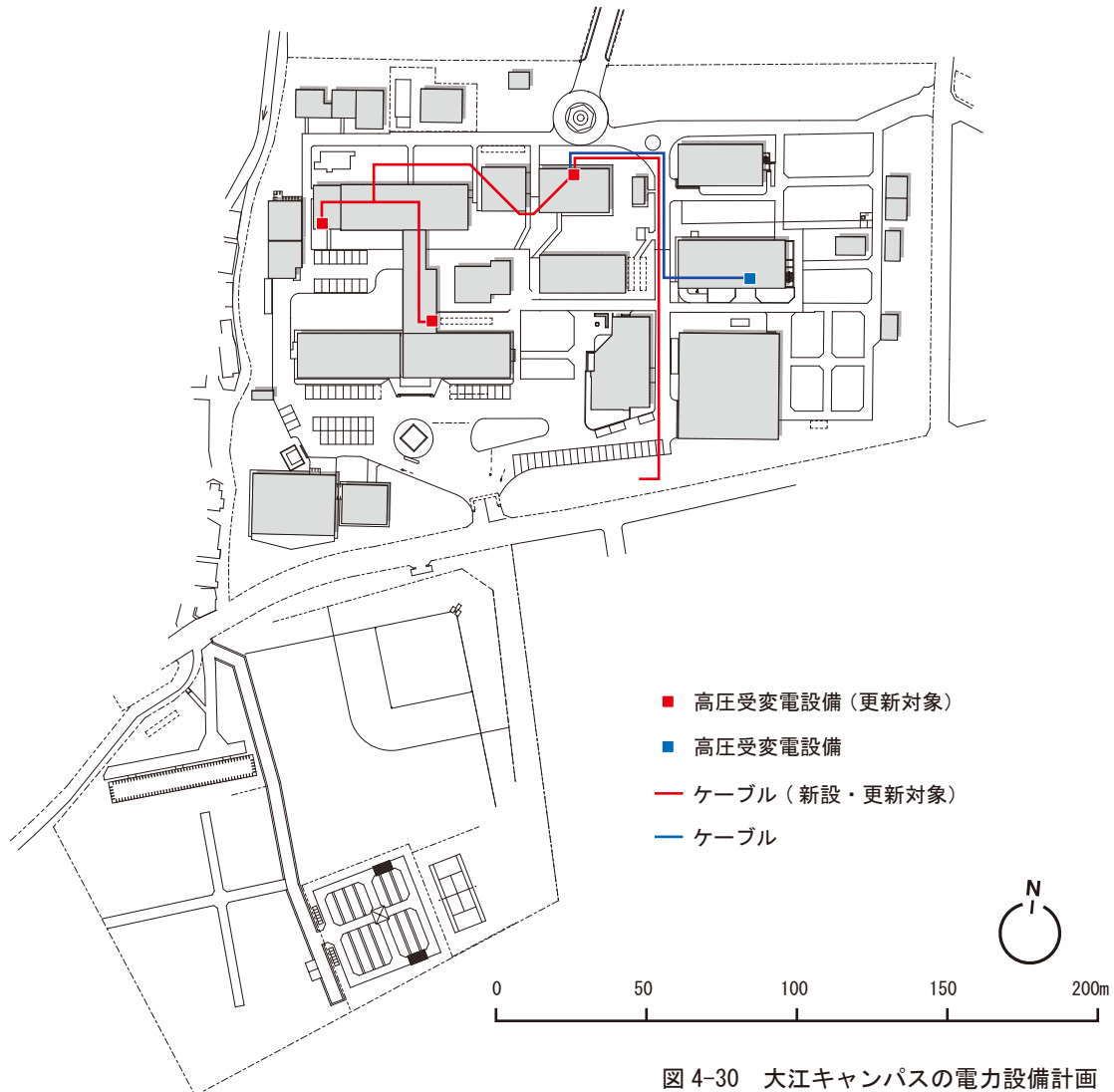


図 4-30 大江キャンパスの電力設備計画

(1) 電力設備計画

□現状

引き込み：6.6kV 1回線／変電所：4箇所

□計画

耐用年数を超過した受配電設備及び高圧ケーブル等の更新を行う。
 建物の新築・増築・改修に合わせて太陽光発電設備の整備を行う。

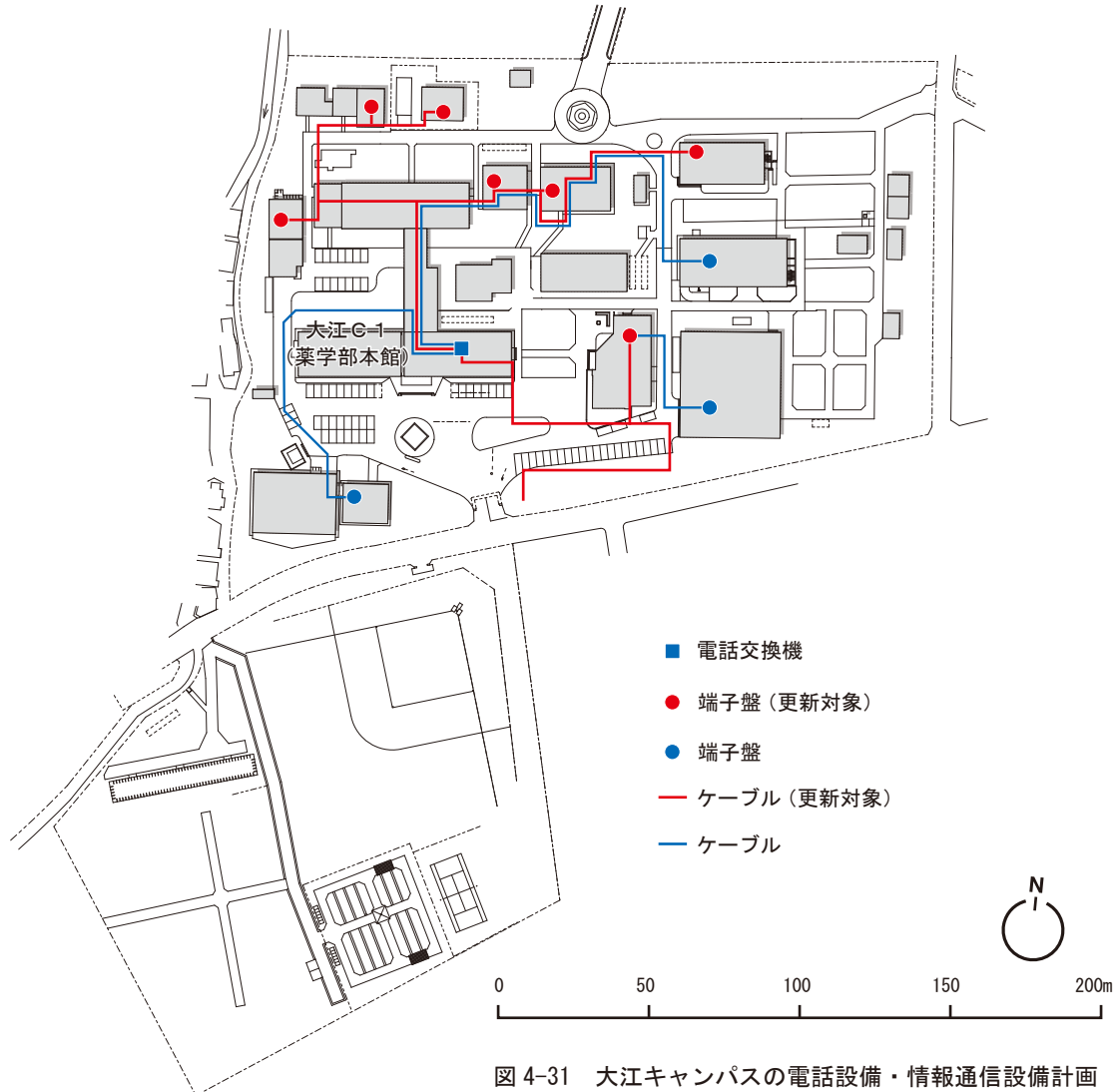


図 4-31 大江キャンパスの電話設備・情報通信設備計画

(2) 電話設備計画

□現状

局線数：INS64 3回線／アナログ1回線
内線数：138回線

□計画

耐用年数を超過した通信ケーブル等の更新を行う。

(3) 情報通信設備計画

□現状

大江C1より各建物へ光ケーブルの敷設を行っている。

□計画

建物の新築・増築・改修に伴い情報通信網の充実を図る。



(4) 空気調和設備計画

□現状

大江C4、大江E2及び福利施設である蕃滋館、大江W3が設置後20年を経過している。

□計画

空調方式については、イニシャル及びランニングコスト等を考慮しながら計画する。
老朽化した空調機を順次更新する。

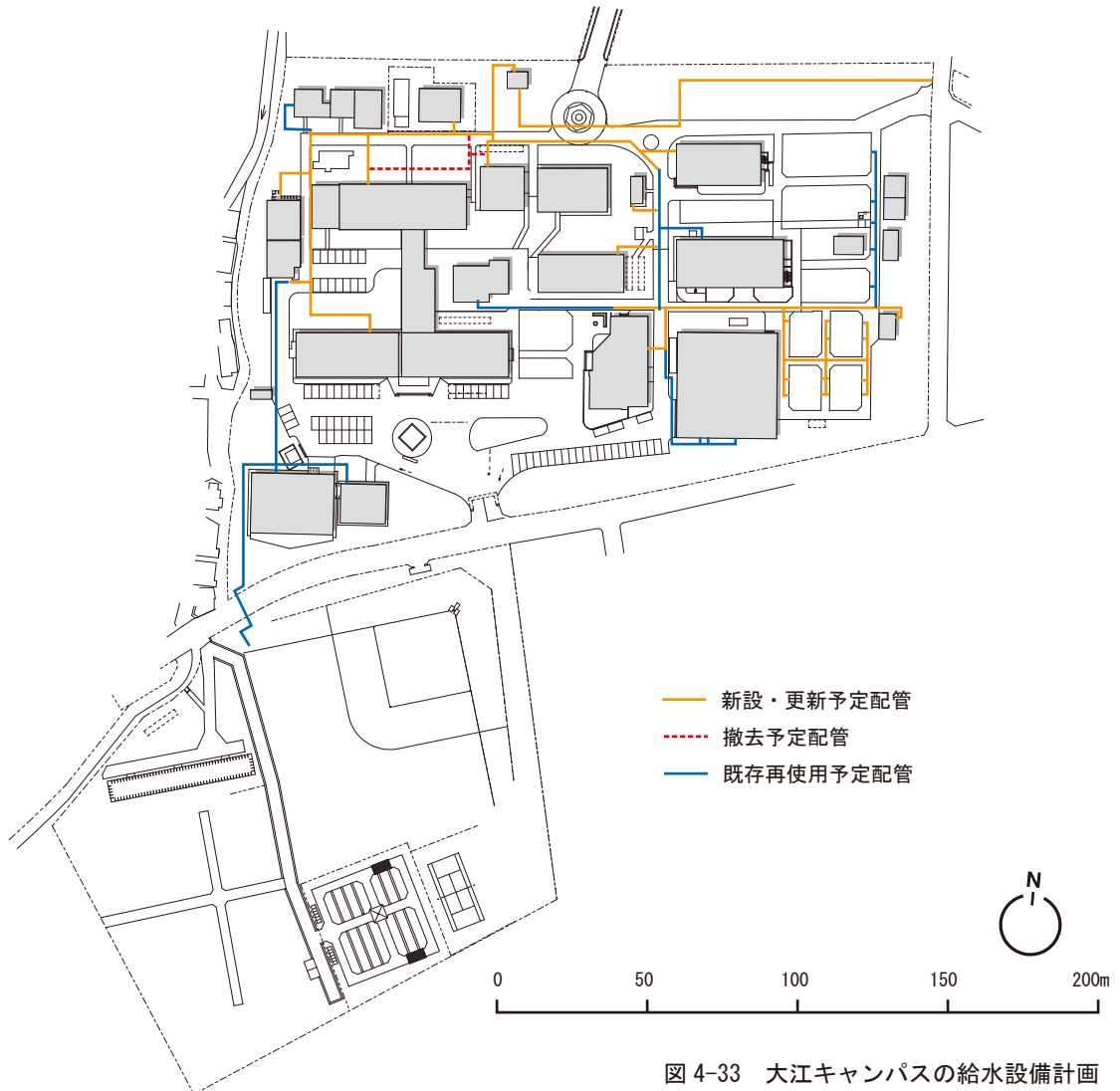


図 4-33 大江キャンパスの給水設備計画

(5) 給水設備計画

□現状

深井戸1本、給水滅菌装置および供給設備1箇所。
 埋設配管は、ポリエチレン管、外面被覆鋼管、铸铁管で整備を行っている。

□計画

耐震性、耐食性の高いポリエチレン管等へ順次更新する。

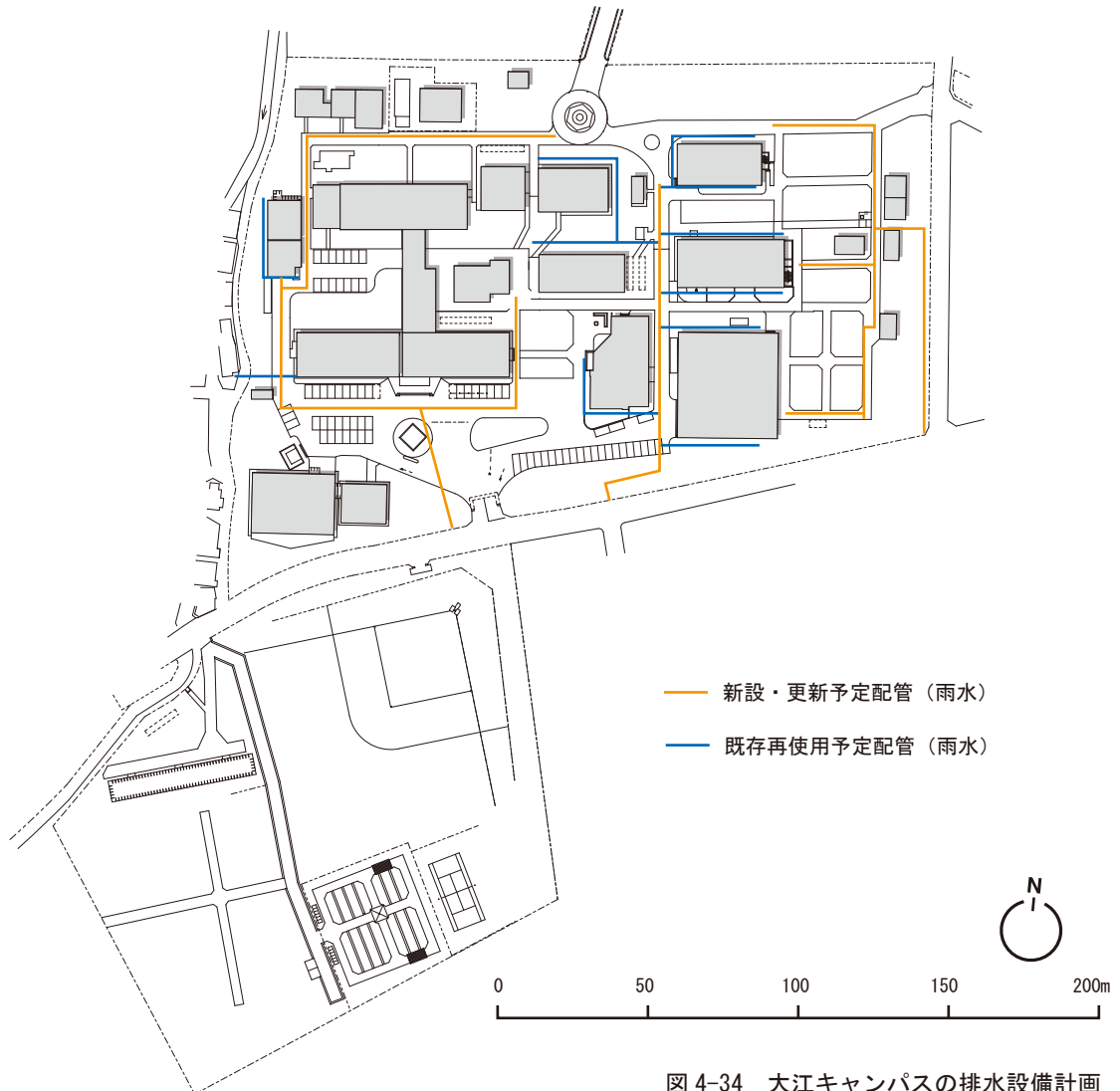


図 4-34 大江キャンパスの排水設備計画

（6）排水設備計画

□現状

幹線および一部建物廻り排水は合流式

□計画

雨水排水を整備し分流化を行う。

また、合流式となっている一部の建物廻りについても分流化を行う。

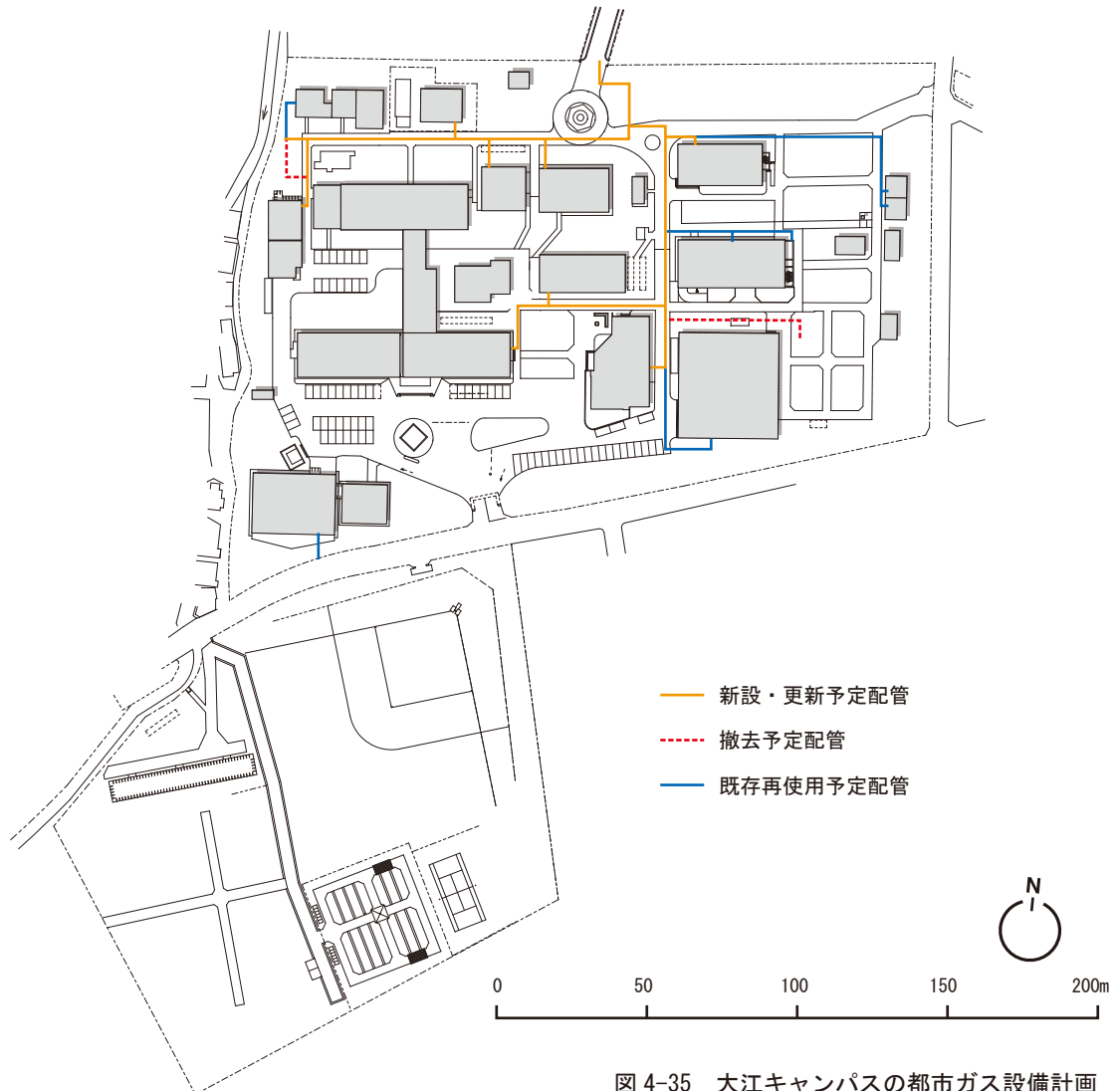


図 4-35 大江キャンパスの都市ガス設備計画

(7) 都市ガス設備計画

□現状

引き込み系統 2系統
埋設配管の約60%が経年30年を超えている。

□計画

埋設配管について、耐震性、耐食性の高いポリエチレン管等へ順次更新する。



図 4-36 大江キャンパスのエレベーター設備計画

(8) エレベーター設備計画

□現状

① 1 基 (内経年 20 年以上 : 0 基)

□計画

経年 20 年未満のものについては、建築基準法既存不適格事項の解消を進める。

4-4-4 京町キャンパスのインフラストラクチャー計画

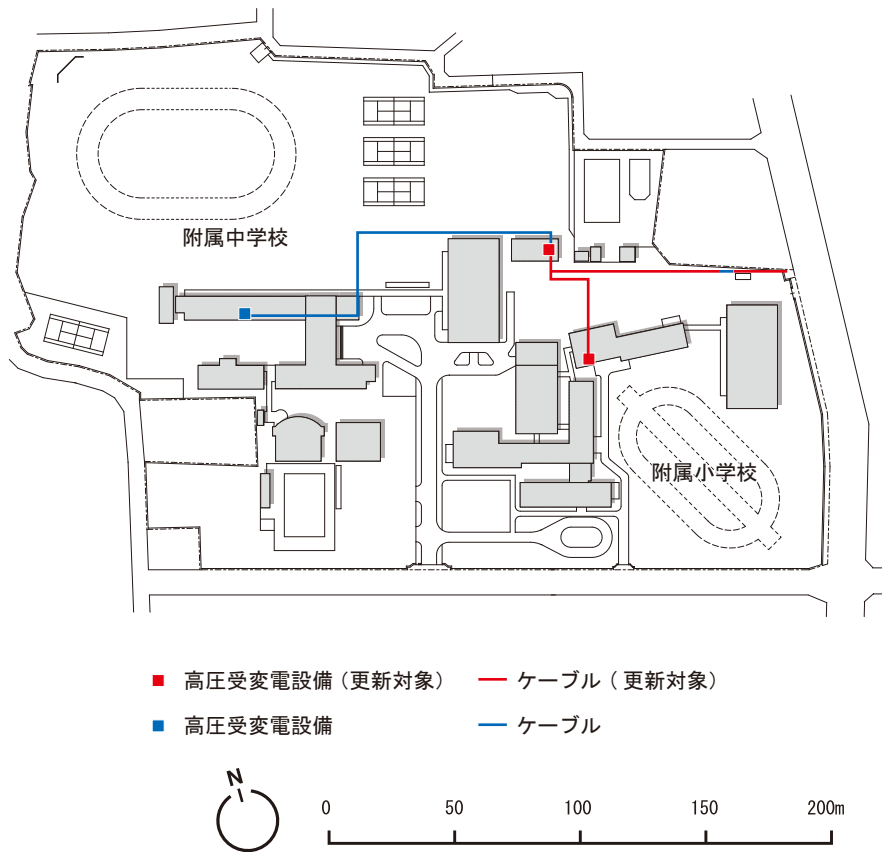


図 4-37 大江キャンパスの電力設備計画

(1) 電力設備計画

□現状

引き込み：6.6kV 1回線／変電所：3箇所

□計画

耐用年数を超過した受配電設備及び高圧ケーブル等の更新を行う。
建物の新築・増築・改修に合わせて太陽光発電設備の整備を行う。

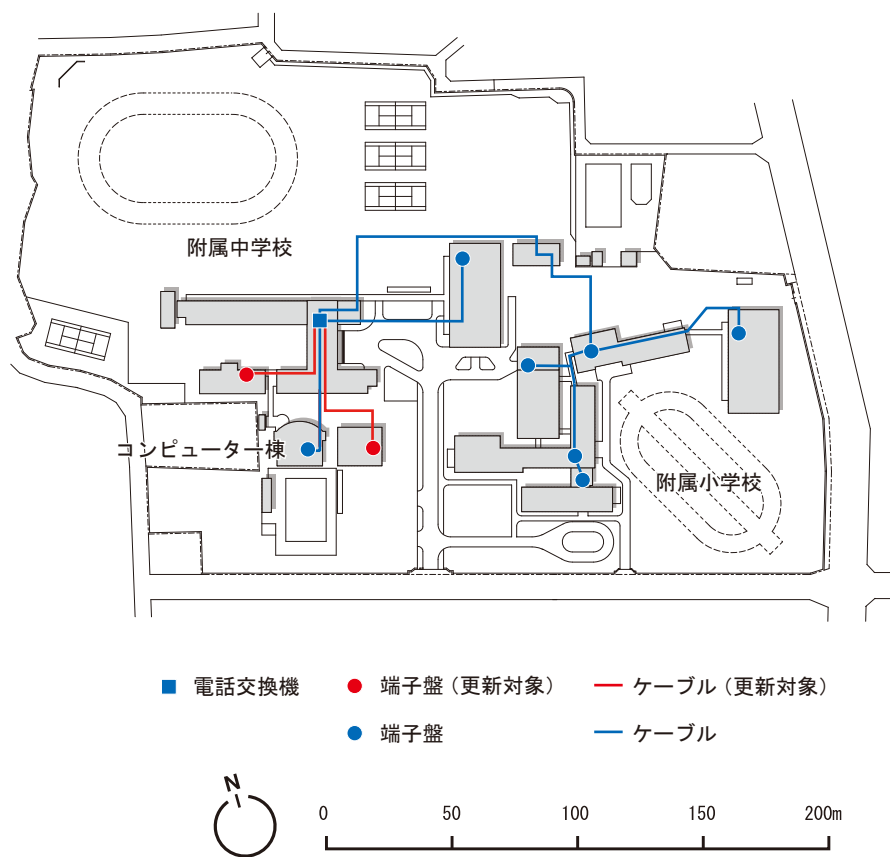


図 4-38 京町キャンパスの電話設備・情報通信設備計画

(2) 電話設備計画

□現状

局線数：アナログ 8回線
内線数：48回線

□計画

耐用年数を超過した通信ケーブル等の更新を行う。

(3) 情報通信設備計画

□現状

コンピュータ棟より各建物へ光ケーブルの敷設を行っている。

□計画

建物の新築・増築・改修に伴い情報通信網の充実を図る。

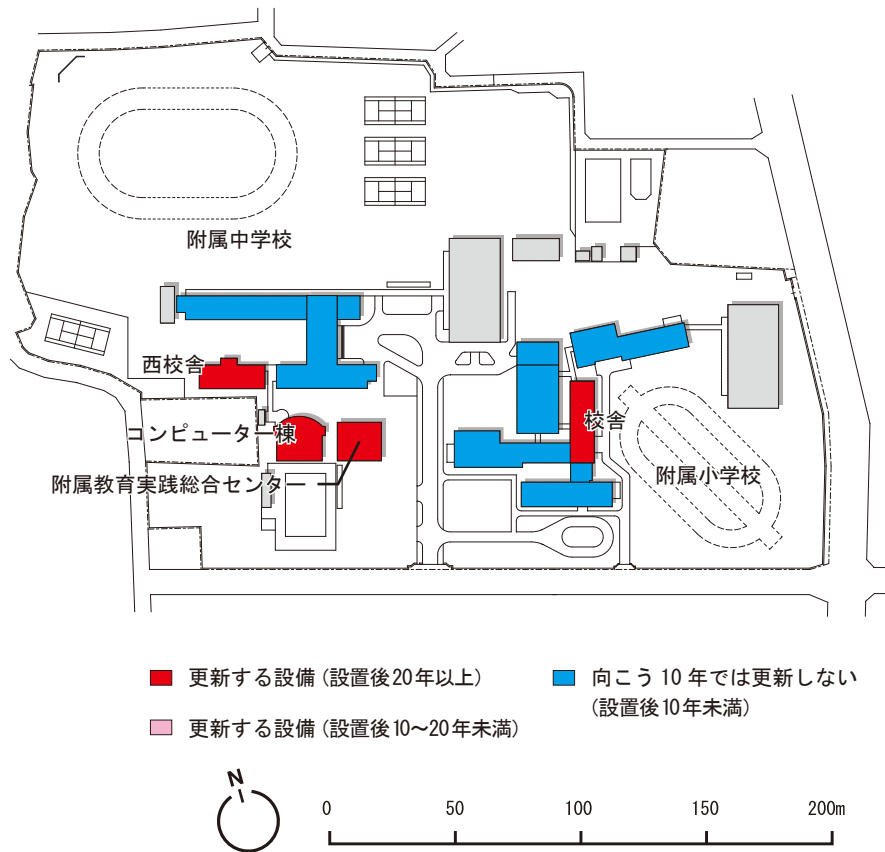


図 4-39 京町キャンパスの空調調和設備計画

（4）空調調和設備計画

□現状

- ①附属中学校
西校舎、コンピューター棟は、設置後20年を経過している。
- ②附属小学校
校舎は、設置後20年を経過している。
- ③附属教育実践総合センター
設置後20年を経過している。

□計画

空調方式については、イニシャル及びランニングコスト等を考慮しながら計画し、老朽化した空調機器を順次更新する。

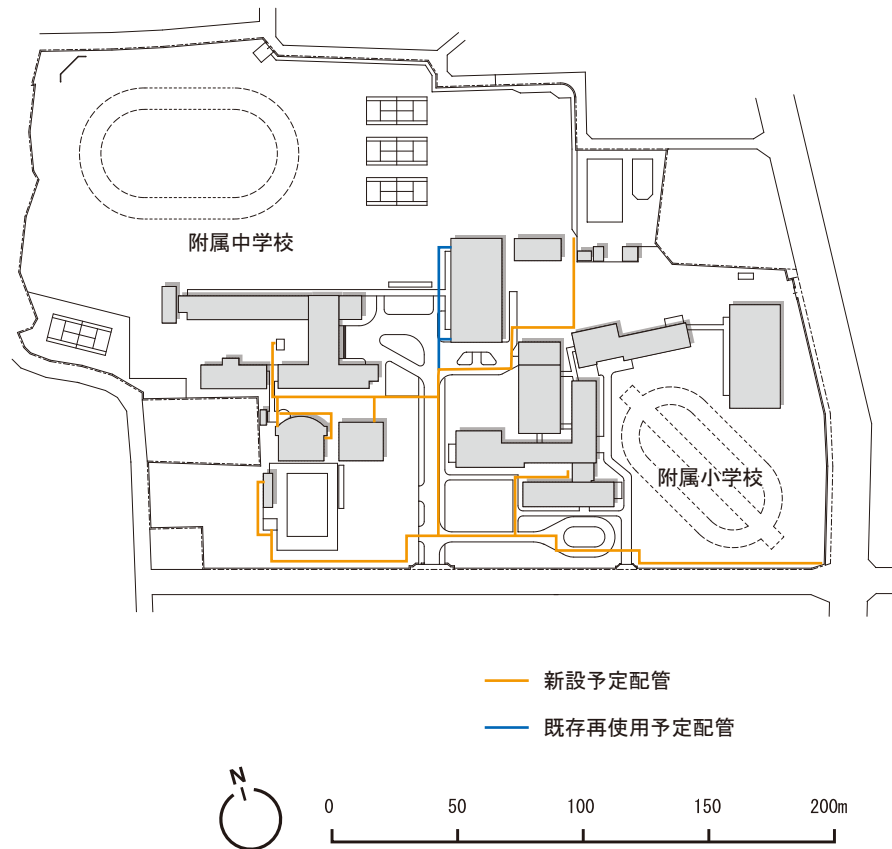


図 4-40 京町キャンパスの給水設備計画

(5) 給水設備計画

□現状

熊本市上下水道局から上水道の供給を受け校内各所へ供給している。附属小・中学校にそれぞれ受水槽を1基設置。埋設配管について、経年劣化や铸铁管、鋼管の腐食による漏水が度々発生している。

□計画

埋設配管について、耐震性、耐食性の高いポリエチレン管等へ順次更新する。

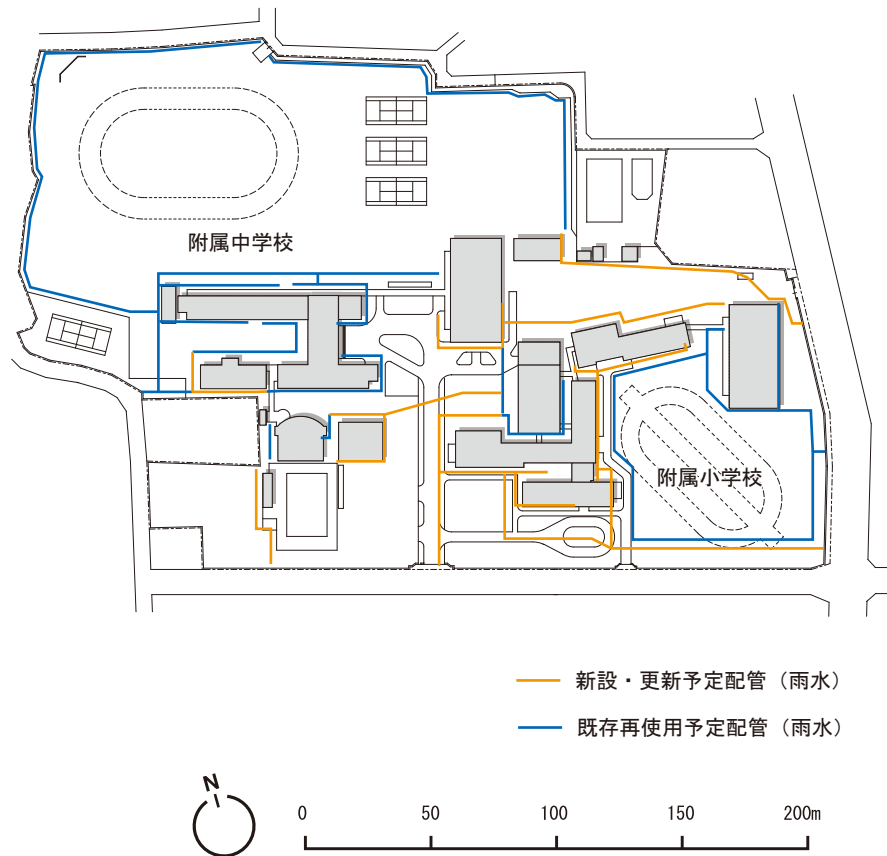


図 4-41 京町キャンパスの排水設備計画

(6) 排水設備計画

□現状

公共下水道の分流地区となっているため、敷地内排水はすべて雑排水・雨水に分流化されているが、排水管内へ木の根の入り込みや勾配不良により、敷地内の雨水排水が滞留する等の影響が出ている。

□計画

排水不良部等について順次整備を行う。

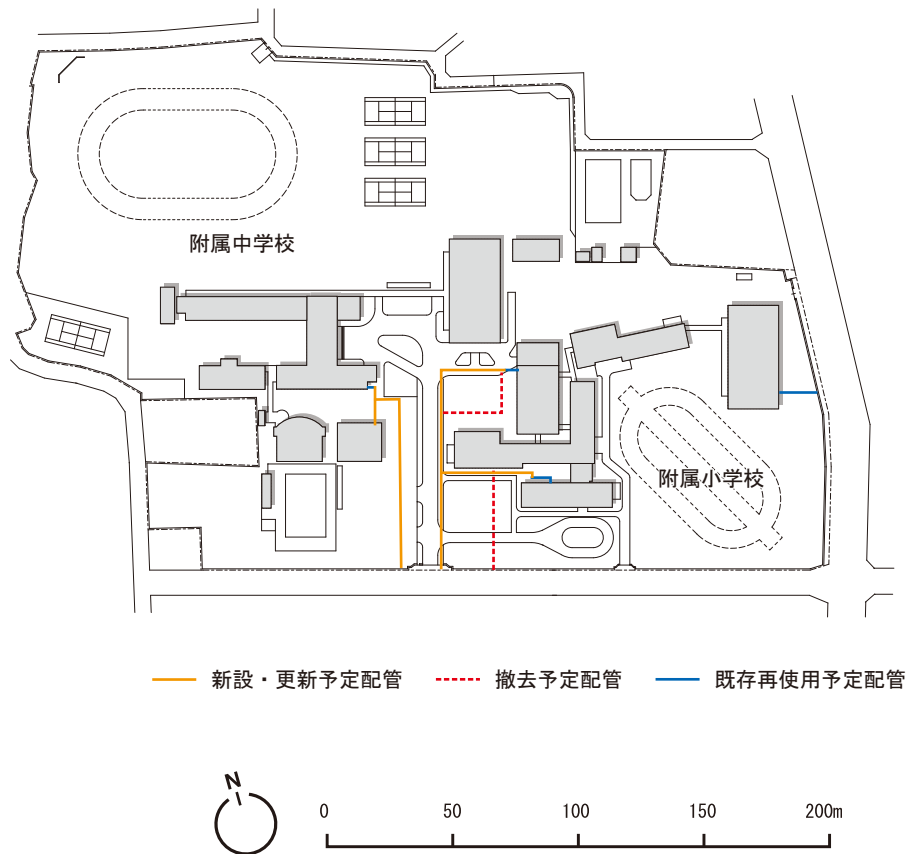


図 4-42 京町キャンパスの都市ガス設備計画

(7) 都市ガス設備計画

□現状

引き込み系統 2系統
埋設配管の約40%が経年30年を超えている。

□計画

埋設配管について、耐震性、耐食性の高いポリエチレン管等へ順次更新する。

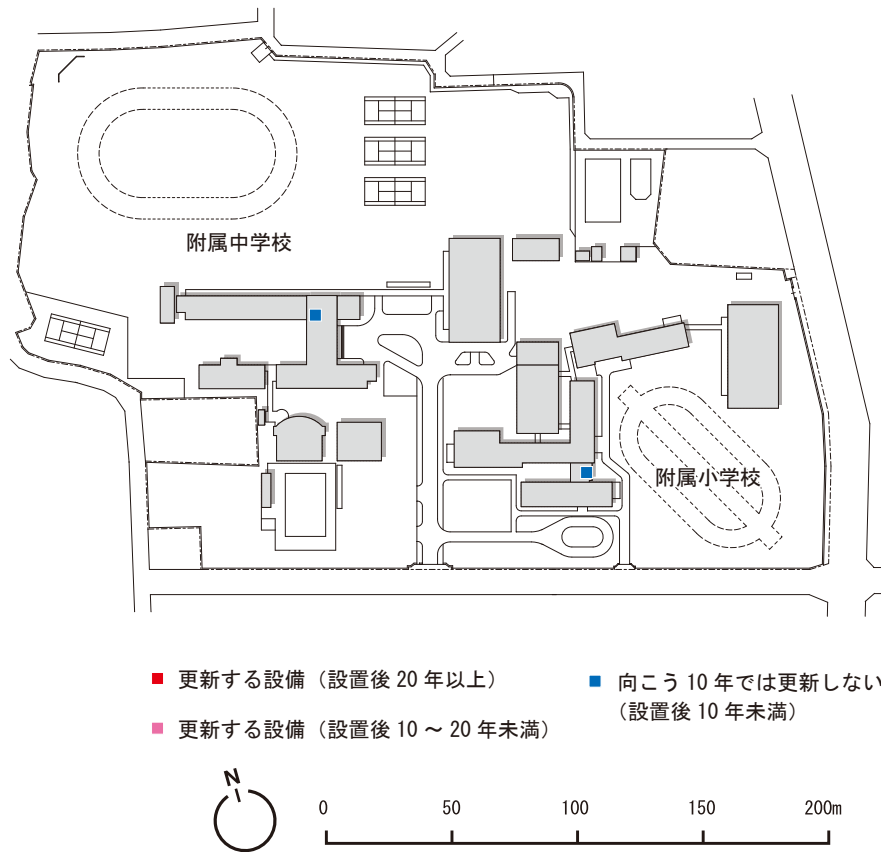


図4-43 京町キャンパスのエレベーター設備計画

(8) エレベーター設備計画

□現状

① 2基（内経年20年以上：0基）

□計画

経年20年未満のものについては、建築基準法既存不適格事項の解消を進める。

4-4-5 城東町キャンパスのインフラストラクチャー計画

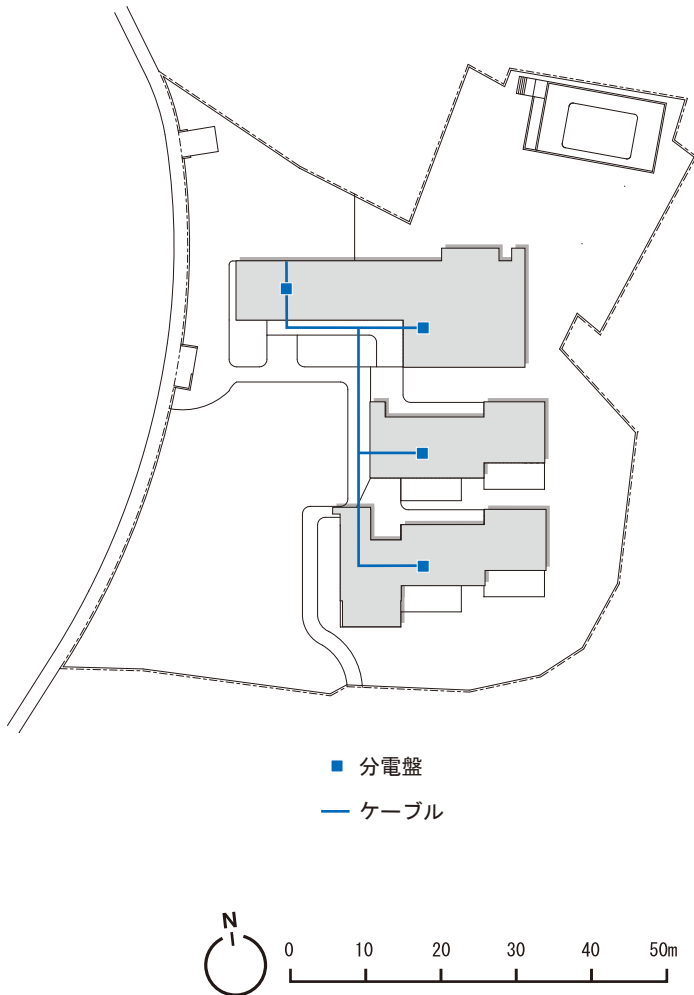


図 4-44 城東町キャンパスの電力設備計画

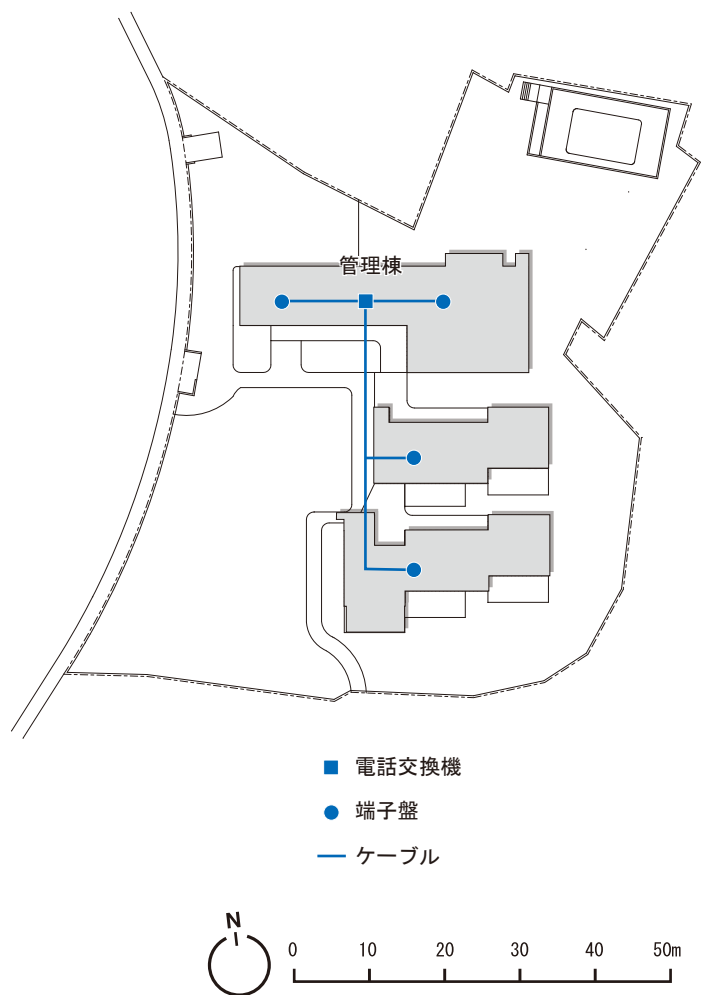


図 4-45 城東町キャンパスの電話設備・情報通信設備計画

(1) 電力設備計画

□現状

引き込み：低圧電灯 1 回線・低圧動力 1 回線

□計画

建物整備に合わせて設備の充実を図る。

(2) 電話設備計画

□現状

局線数：アナログ 2 回線
内線数：13 回線

□計画

建物整備に合わせて設備の充実を図る。

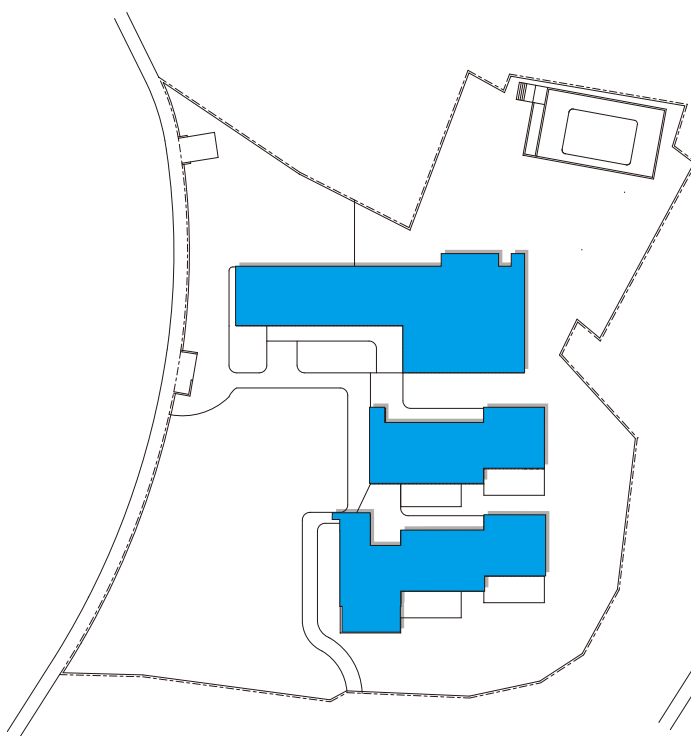
(3) 情報通信設備計画

□現状

管理棟より各室へ UTP ケーブルの敷設を行っている。

□計画

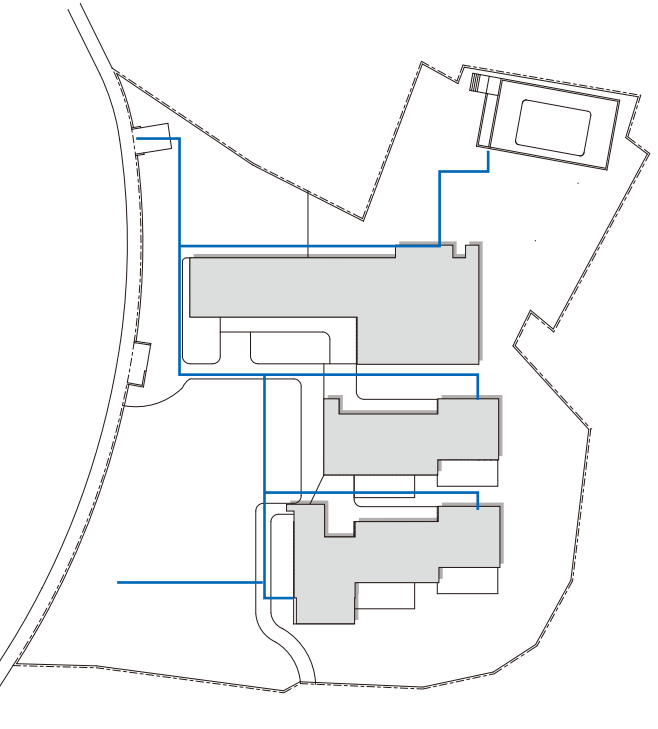
建物整備に合わせて設備の充実を図る。



- 更新する設備 (設置後20年以上)
- 更新する設備 (設置後10~20年未満)
- 向こう10年では更新しない (設置後10年未満)



図 4-46 城東町キャンパスの
空気調和設備計画



- 新設・更新予定配管
- 既存再使用予定配管

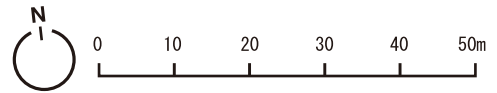


図 4-47 城東町キャンパスの
給水設備計画

(4) 空気調和設備計画

□現状

設置後20年未満のものだけである。

□計画

建物の新築・増築の際は、空調方式について、イニシャル及びランニングコスト等を考慮しながら計画する。

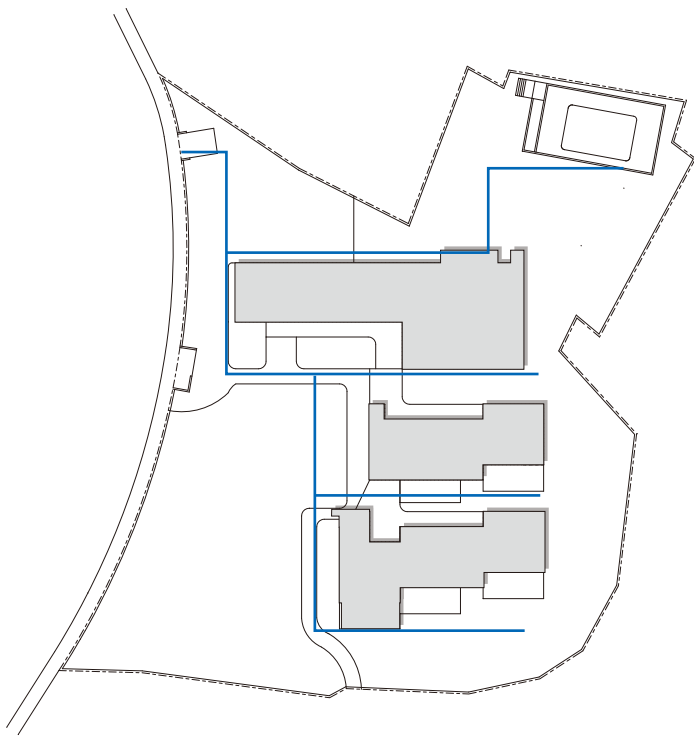
(5) 給水設備計画

□現状

熊本市上下水道局からの上水道の供給を受け、直圧にて園内各所へ供給している。
埋設配管は、プール廻りを除きポリエチレン管へ更新が完了している。

□計画

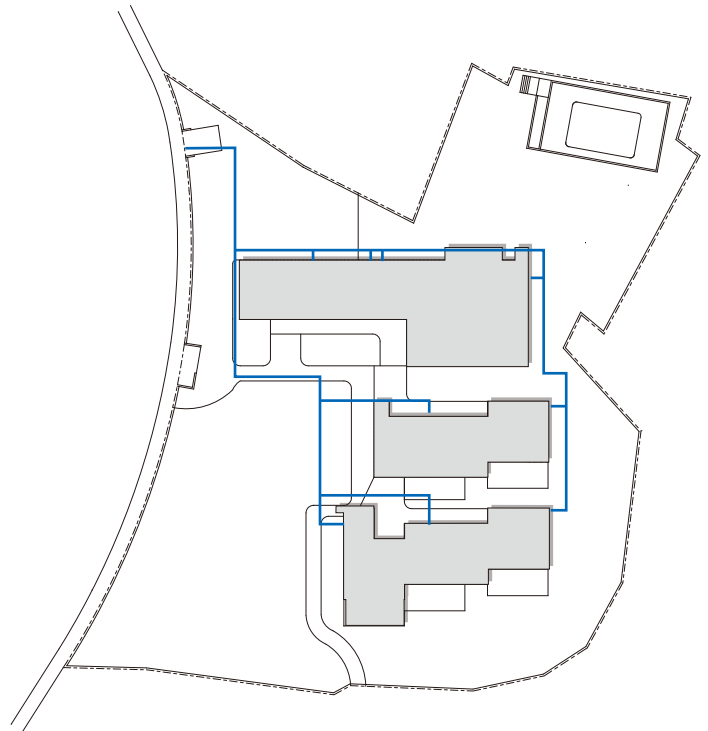
建物の新築・増築に合わせて設備の充実を図る。
プール廻り埋設配管は、改修にあわせてポリエチレン管等へ更新する。



— 新設・更新予定配管（雨水）
— 既存再使用予定配管（雨水）



図 4-48 城東町キャンパスの排水設備計画



— 新設・更新予定配管
— 既存再使用予定配管



図 4-49 城東町キャンパスの都市ガス設備計画

(6) 排水設備計画

□現状

敷地内配管について、プール廻りを除きすべて雑排水・雨水の分流化を完了している。

□計画

改修にあわせて、プール廻り排水管の分流化を行う。

(7) 都市ガス設備計画

□現状

引き込み系統 1系統
埋設配管は、ポリエチレン管へ更新が完了している。

□計画

建物の新築・増築・改修に合わせて設備の充実を図る。